ライオン誌(毎月20日発行)第57巻第6号 2014年11月20日発行 昭和33年12月19日付第3種郵便物認可

IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

WWW.THELION-MAG.JP DECEMBER 2014 12

今月の特集

ライオンズの誇り

LION 電子版

ライオン誌電子版は2009年7月号にスタート。当初はパソコン上で読める形式で作成されていましたが、スマートフォンやタブレットの普及に伴い、2014年8月号からそれらにも対応させています。また、専用アプリを使用することで、スマホやタブレットからはオフラインでも閲読出来るようになっています。

専用アプリには、検索やメモ、マーカーなどの機能も付いています。

●**検索**：任意のキーワードを入力して、ライオン誌内の文字を検索出来ます。検索結果は一覧表示され、該当するキーワードをハイライト表示します。

●**メモ**：ページ内にある任意の場所をタップしてメモを貼ることが出来ます。更に貼ったメモにはコメントの入力も出来ます。メモはデバイスに保存され、次回閲覧時に表示されます。

●**マーカー**：ページ内にある任意の場所をドラッグして直線を描くことが出来ます。線はデバイスに保存され、次回閲覧時に表示されます。

アプリは、電子版の作成ツールを契約しているコベック社が提供する「Wisebook3 OpenViewer」で、iPhoneやiPadなどのiOSはApp Storeから、他のAndroid系スマートフォンやタブレット用はGoogle Playから無料でダウンロード出来ます。

↑Android版のGoogle Playダウンロード･ページ
play.google.com/store/apps/details?id=jp.wisebook.openviewer

↑iOS版のApp Storeダウンロード･ページ
itunes.apple.com/jp/app/wisebook3-openviewer/id544678353

■Wisebook3 OpenViewer
（Android版）

■Wisebook3 OpenViewer
（iOS版）

※ライオン誌のライブラリー（書庫）には、次のログインIDとパスワードを入力してお入りください。

アカウントID：thelion

ログインID：jp

パスワード：tsukiji221

LION MAGAZINE IN JAPAN
December 2014, Vol.57 No.6

We Serve CONTENTS

■2014年12月号
表紙
宮崎県日之影町
石垣の村
写真／鈴木秀晃

本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

A Message From Our President

Joe Preston
Lions Clubs
International President

私はライオン

私がこの世界に居場所を築き始めたのは20代の頃でした。夫となり、父となり、販売部長に昇進し、音楽に打ち込み、そうしたことが私自身を形成していきました。他にもさまざまな趣味や活動にいそしみ、そこにはライオンとしての奉仕も含まれていました。そして徐々に時間を掛け、しかしある時点からは急速に、私はライオンとして意識的に行動する必要がなくなりました。それは私自身になったのです。ライオンであることを、自らの天命、力強く、極めて効果的に社会に貢献する自分自身のやり方なのだと受け止め、私のアイデンティティーはそれと切り離せないものとなりました。『ライオン誌』北米版の12月号では世界中で活躍するライオンズを特集し、インタビューに答える彼らの言葉を掲載しています。共通しているのは、ライオンであることは気晴らしや道楽を大きく超え、自分自身をどのように定義し、地域社会とどのように関わっていくかを具現化する手段となっているということです。それは恩返しの方法であるだけでなく、生き方そのものでもあるのです。

ライオンズとしてのアイデンティティーに注目することは、新年を迎えようとするこの時期にふさわしいことでしょう。アイデンティティーは不変のものではありません。映画監督のスティーブン・スピルバーグは、「私たちは皆、毎年違った人間になる。一生同じ人間であるとは思わない」と述べています。したがって、ライオンズの活動に全力を傾けている人も、ほどほどに参加している人も、あるいは遠ざかっている人も、一人ひとりが取り組みを高める決意を固めてほしいのです。自分の経験から言いますが、皆さんの人生は間違いなく大いに豊かなものとなるでしょう。自分のために出来る最善のことは、他者に奉仕することだからです。

年末年始を迎えるに当たり、妻のジョニともども皆さんのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。ライオン各位の献身に深く感謝し、奉仕に満ちたすばらしい2015年となることを楽しみにしています。

Joe Preston

2014-15年度国際会長
ジョー・プレストン

※このメッセージの原文は国際協会公式ウェブサイトに掲載されています
http://www.lionsclubs.org/EN/about-lions/our-leadership/meet-the-leaders/presidents-message.php

HEADLINE

11月3日、東京・新宿の京王プラザホテルで「全日本ライオンズ女性会員フォーラム」が開催され、27の地区から約350人の会員（女性300人、男性50人）が参加した。フォーラム第1部では元衆議院議員の池坊保子氏（京都チェリーライオンズクラブ）が講演。華道池坊家の家元夫人としての経験や、政治家としての活動から、「勇気を持って取捨選択することで伝統が継承される」「男性も女性も活躍出来る心豊かな社会を作るには一人ひとりを尊重することが大切」などと話した。続いて、公式訪問のため渡欧中の山田實紘国際第1副会長からの国際電話による祝辞を挟んで、第2部のパネル・ディスカッションへ。3月に組織され、このフォーラムを主催した「全日本女性会員ネットワーク」の河合悦子代表（元協議会議長）をコーディネーターに、中村泰久元330・C地区ガバナー、衆議院議員の小池百合子氏（東京ウィルライオンズクラブ）、「洋菓子のヒロタ」を再生させた21LADY㈱の広野道子社長、更に同ネットワーク副代表でもある長澤千鶴子（333・C）、瀧北美智子（335・D）、松井和子（337・A）の3人の元地区ガバナーがパネリストとして登壇し、「女性のステップアップ」をテーマに討議。「女性の力を生かすには、男性の意識改革と共に、女性自身も天井を取り払い、自分を客観的に評価して、役職を積極的に受け入れる必要がある」といった意見が出された。その後、同ネットワーク顧問を務める後藤隆一元国際理事が総括。「日本が多様性を持ったライオンズとして前進出来るよう、この日参加された皆さん一人ひとりが主体的に指導力を発揮してほしい」と結んだ。

SCENE

新潟県・三条中央ライオンズクラブ

取材／砂山幹博　撮影／関根則夫

クラブの特長を生かした、健診アクティビティ

特定の職業を持つ会員が多く在籍していると、その職種を通じた活動が可能になる。三条中央ライオンズクラブ（外山博会長会長／75人）は、医師が多いという特長を生かし、ボランティア健康診断を30年以上続けている。今年も10月9日、三条市内及び周辺市町の知的障害者50人が入所する障害者施設いからしの里で健診奉仕を行った。

健診の対象は、47人の長期入所者と5人の通所利用者で、クラブからは耳鼻科医1人、内科医3人、歯科医3人の他、サポート役のメンバーらが駆け付けた。眼科医だけはクラブにいないため、毎回外部の医師に応援をお願いしている。

いからしの里では、毎年7月に嘱託の医師に内科検診を依頼しているが、4科を同時に診てもらえるこのボランティア健診をなくてはならないものと考えている。過去には、入所者が白内障を発症しているのを、この健診で見付けたこともある。特に効果が絶大なのが歯科検診だ。入所者は、町の歯科にかかるだけでも怖がって医師の前で口を開けようとしないことが多い。ところが、ライオンズの健診は普段生活している施設内で行われるため、入所者も安心して口を開けてくれるのだ。しかも、毎年同じ医師が診てくれるという安心感もあり、年を追うごとに検診はスムーズになっている。

健診の後は、施設職員が医師に質問をする時間が設けられていて、普段なかなか聞けないことを聞ける情報交換の場となっている。

SCENE

福岡県・糸島ライオンズクラブ

取材／井原一樹　写真／関根則夫

失われたかつての海岸線を取り戻す、植樹と環境整備を実施

福岡県糸島市は二見ケ浦に代表される海の奇麗な土地である。特に志摩芥屋から野北にかけての海岸線には防風林の役割を担った松が植えられ、その白砂青松の景色は多くの人に愛されていた。だが、農薬の空中散布が周辺住民の反対によって実施されなくなった5年前から異変が起こった。松くい虫の被害が瞬く間に広がり、わずか数年のうちに海岸線を覆っていた松のほとんどが枯れてしまったのである。こうして、10年前には道路から海が見えないほど松が生えていたとは想像出来ないような景色となり、塩害や風害が心配されるようになった。

この状況に立ち向かっているのが糸島ライオンズクラブ(中下淳治会長／68人)だ。クラブは今年3月に結成45周年を迎え、その記念事業として松林再生に乗り出した。まず松林が市有地であることから市と交渉。市も松林の現状に危機感を抱いていたため、話はトントン拍子に進んだ。また、事業実施に際しては国の交付金も申請。行政と協力しての松林保全活動が始まった。

その後、クラブでは松林の現況調査を行い、活動計画を作成。更に雑草木の刈り払いを2度にわたって行い、今年2月には松くい虫に強いスーパー黒松を約800本植樹した。

そして10月18日、海岸線にライオンズのメンバーと会員企業の社員、少年野球チームの選手ら約300人が集合。草刈りなどの環境整備活動を行った。クラブでは今後、松林がかつての姿を取り戻すまで植樹と環境整備を続けていく。

CLUB REPORT クラブ・リポート

331-A地区

北海道・札幌ノース ライオンズクラブ

親子で参加出来る北海道すこやかマラソン

10月11日、北海道札幌市を流れる豊平川の右岸、幌平橋付近に札幌ノース ライオンズクラブ（生富昭憲会長／25人）の面々が集まっていた。この日はクラブの主催する北海道すこやかマラソン大会当日。晴天に恵まれたが、強い風が吹く一日となった。そんな中、道内各地からランナーが集結した。

この事業は今回で3回目。2キロ部門、5キロ部門、10キロ部門があり、コースは豊平川沿いの遊歩道だ。2キロ部門は小学生男女と親子（未就学児と保護者）が対象。5キロ部門は小学生以上、10キロ部門は中学生以上に参加資格がある。また、出走は同時に行われるが、49歳以下、50歳以上の男女それぞれ別に順位付けをし、表彰している。更に10キロでは足りない人のために5キロ＋10キロ部門も併設。これにエントリーした人は5キロ部門と10キロ部門それぞれに出走し、その合計タイムを競うことになる。

もともと、クラブでは青少年育成事業として少年アイスホッケー大会を支援するなどしていた。だが、メンバーが労力を使って奉仕し、もっと多くの子どもが参加しやすい事業はないかと模索していた。そんな折、ライオン大西仁詩が地元のマラソンクラブに入っていたことからマラソン大会を開催する案が浮上。親子で参加出来る形で実施することになった。

当日はメンバーとその家族、知人がスタッフとして、受付からスタートの合図、沿道での誘導などを行う。また、赤十字奉仕団の協力により、医療関係者もスタート地点、折り返し地点などに配置。ライオン横関吉郎のつながりで無線赤十字奉仕団の協力も得て、大会運営を円滑に進めている。特に大々的なPRをしているわけではないが、マラソン・ランナーたちの情報サイト、「RUNNET」で大会の告知をしているため、札幌近郊以外からの参加者も増えてきた。

この日は約200人が参加。親子で参加出来る2キロ部門の参

●投稿要領：
アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に。700字程度。写真を添付。ライオン誌ウェブマガジンのオンライン投稿か、Eメールまたは郵送で。送付先は57ページ下。

加者は笑顔で準備体操をするなど楽しげな雰囲気。5㌔部門、10㌔部門の参加者はそれぞれのベストタイムを目指して入念な準備を行っていた。

一方で、人気のキャラクター「ふなっしー」の格好をして走る人などもおり、市民マラソンの懐の深さを感じる大会となっていた。2㌔部門では子どもと手をつないだり、子どもを抱っこしたりして走る保護者の姿が見られ、親子の絆が深まっていたようだった。

この大会の参加費の一部はクラブの青少年育成事業に使われる。その事業内容をホームページ上で公開し、参加者にも用途を分かってもらうと共に、クラブの活動をPRしている。クラブでは今後もこの事業を続けていく予定だ。

（取材／井原一樹　撮影／関根則夫）

332-B地区

岩手県・一関中央ライオンズクラブ

好奇心をくすぐる企画が盛りだくさんの体験寺子屋

10月5日、一関中央ライオンズクラブ（菅原りつ子会長／78人）は、一関市狐禅寺の光西寺でわんぱく寺子屋を開催した。昨年に続き2回目となるこの催しに、市内八つの小学校から26人の児童が参加。盲導犬体験を始め、座禅や流しそうめんなどに挑戦した。

午前10時の開会式の後、最初に行われたのは日本盲導犬協会から訓練士の奥澤優花さんと盲導犬ピノを迎えての体験学習だ。盲導犬が普段どんな仕事をしているかが、実演を交えて披露され、目隠しをした子どもをピノが誘導する体験歩行が行われた。ハーネスという胴輪を付けるとピノは仕事モード。アイマスクで目を隠した子どもが不安そうにハーネスを手にし、「ゴー」と英語で合図するとピノは堂々と歩き出した。コース上には障害物に見立てた椅子が置かれている。二人並んで通れそうにない場所では、ピノは立ち止まって周囲を見回し、違うコースを見付けて誘導してくれる。10メートル程の歩行だったが、子どもたち全員が、目の不自由な人のことと、盲導犬の仕事ぶりを肌で感じた体験だった。

一関中央ライオンズクラブには、これまで中高生向けのアクティビティはあったものの、小学生向けの活動はなかった。そこで前年度、小学生向けに何かをしようとなった時、今回とは内容が違うが、「寺子屋」イベントを経験していたメンバーが何人かいたことからこの活動がスタート。ノウハウがあったことに加え、メンバーに住職がいたことも後押しとなった。

何しろ住職が居ないと始まらないのが座禅。今回、子どもたちが最も不安がっていた体験である。まず住職のライオン本田秀行の指導の下、座布団の上で足を組む練習だ。座禅堂では一切話が出来ないので、隣室でしっかりやり方を叩き込まれて、いざ本番。神妙な面持ちで座禅堂に入った子どもたちは、体と息を調えて静かに15分間座り続けた。

すっきりした表情でお堂から出てきた子どもたちに「座禅はどうだった」と尋ねると「思ったより楽しかった」「脚がしびれた」という感想に混じって「流しそうめんのことを考えて

いた」という声。

そう、座禅の次はお待ちかねの流しそうめん。この日は気温17度と冷え込み、決してそうめん日和ではなかったが、子どもたちはお構いなし。流れてくるそうめんやフルーツを箸で器用にすくい取っていた。

昼食後は、丸めた粘土をひたすら磨き、ぴかぴかに仕上げるつるぴか団子作りに挑戦。思った以上に上手に仕上がったようで皆満足顔だ。最後に全員が寺子屋マスター認定証を受け取り、解散となった。体験するメニューは変わるかもしれないが、来年もまた子どもたちが喜ぶ企画満載で開催される予定だ。

（取材／砂山幹博　撮影／関根則夫）

335-A地区

兵庫県・神戸須磨ライオンズクラブ

蘇る「感謝・夢・希望」タイムカプセル開封式

　神戸須磨ライオンズクラブ（51人）は10月5日、タイムカプセルの開封式を須磨区須磨寺町の須磨寺参道沿いにある「お大師広場」で行った。

　このタイムカプセルは当クラブが2004年2月に40周年記念事業として埋めたもの。「用件だけなら電話で足りる。電子メールも便利で結構。それでも便箋（びんせん）に文字をつづってみれば、何か違うものが伝わってくる。10年後に思いを馳せ、何か伝え残してみませんか」と当時の須磨区内の幼稚園児と小中学生らを中心に約570人が10年後の自分や友人に宛てた手紙を書き、このタイムカプセルに入れた。

　開封当日は、20代前半を中心に約100人が参加。同窓会のような雰囲気だった。タイムカプセルが開封され、自分の手紙を見付けると、喜びの声が上がる。「大人の女性になってますか？」「もう結婚してますか？」参加者は、10年前を思い出しながら、手紙を読み、気恥かしそうに頬を赤らめていた。

　埋めた当時は小学校6年生だった須磨区内の大学生は、「覚えていなかったけれど、当時から神戸が好きだったということが伝わってきました」と感慨深そうだった。

　参加者は、阪神淡路大震災からの復興と共に成長してきた世代。震災から20年を迎えようとする時に、いいプレゼントが出来たのではないかと思う。

　これからも当クラブでは青少年育成事業を中心に、活動していきたいと思っている。なお、当日参加出来なかった方々には、クラブから手紙を郵送させて頂いた。

（会長／横内稔和）

334-D地区

富山県・滑川有恒ライオンズクラブ

あの大震災から3年半。風化させないための取り組み

　東日本大震災後、滑川有恒ライオンズクラブ（48人）では市民の方々に呼び掛け、炊き出し支援や救援物資の援助、仮設住宅へ被災者を慰問する活動など、3年にわたって支援活動を続けてきた。4年目となる今年度も、震災を風化させないことを目的に、遠方でも出来る支援がないかと模索し、実施している。

　8月22日にはチャリティー講演会を開催。「震災からの教訓」と題した第1部は支援を行った側として当クラブのメンバーが、仕事であるレッカーロードサービスを生かし、宮城県での救援活動の際に感じた教訓を語った。「あの日を忘れない」と題した第2部では石巻中央ライオンズクラブの紹介で、当時女川第二小学校校長を務めていた佐藤文昭先生をお招きし、被災者側の体験を語って頂いた。

　また市内で行われるイベントには東北物産展を実施して東北を側面から支えようと考えている。まずは8月9日に行われたベトナムランタン祭りで岩手県山田町のビールと手づくり薫製食材を販売した。山田町は富山県と震災がれきの広域処理で提携をしている場所だ。他にもベルマークを収集し、被災地の小学校へ送る事業も実施している。

　これらを実施して分かったことは、あれ程の震災であっても3年半という時間が記憶を風化させてしまうということだ。当クラブでは被災地を支援することも大切だが、同時に身近な場所で災害が起こった時の教訓として学ぶことも大事だと考えている。支援活動を通じて生まれた絆を大切に、これからも奉仕していきたい。

（会長／二川隆次）

東京新世紀ライオンズクラブ

児童養護施設の園児たちとクラブ・メンバーで野球大会

9月23日、東京新世紀ライオンズクラブ（佐藤泰治会／29人）は神奈川県相模原市にある横山球場で、支援している児童養護施設バット博士記念ホームの園児たちと交流野球大会を実施した。野球経験のあるメンバーを中心にチームを組み、皆でお弁当を食べてから野球を楽しんだ。

野球に参加出来ない小さな子どもたちのためにはお菓子当てゲームも開催した。試合の結果は当クラブが11対8で勝利。だが、子どもたちも大いに盛り上がり、とても和やかで楽しい野球大会になった。

バット博士記念ホームは東京都町田市にある児童養護施設で、親の離婚や病気、虐待などさまざまな事情により家族と暮らすことの出来ない2歳から18歳の子どもたちが、7軒の家で生活している。バットホームが大切にしていることは、特定の大人が継続的に子どもたちに関わり、安心して生活出来るように、職員が子どもたちと共に住み込んで生活していることだ。こうした取り組みによって、より家庭に近い環境の中で落ち着いた生活を送ることが出来る。そしてこうした環境が、子どもたちが将来築く家庭のモデルになることを願っている。

今回の野球大会の目的は、親と離れて暮らす子どもたちに少しでも楽しい思い出を作ること。終了後、多くの子どもたちから「とても楽しかった。またやりたい！」という声が聞かれ、開催して本当に良かったと思った。来年7月にはホームから1～2人、YCEプログラムでアメリカに派遣することが決まっている。

（広報委員／上原功）

334-A地区

愛知県・名古屋瑞穂ライオンズクラブ

瑞穂区民まつりに参加 留学生に日本文化を伝える

名古屋瑞穂ライオンズクラブ（伊藤照之会長／34人）は毎年、瑞穂区民まつり2014に協賛している。これは瑞穂区民まつり実行委員会が主催している祭りで、今年は8月2日に瑞穂公園レクリエーション広場で開催された。今年度は、クイズ参加者に配布する紙サンバイザー作成費用の一部をクラブが負担し、区民祭りに参加した子どもたちから大変好評だった。

また、03年から祭り会場に開設されている名古屋瑞穂ライオンズブースでは、YCE生派遣並びに交換留学生制度にちなんだ国際貢献の目標に合致する活動の一環として、毎年名古屋にある大学に留学している学生を招待している。

今年度は、16人（男女8人ずつ）の留学生を招待した。彼らには浴衣を着てもらった。浴衣、帯、下駄などは記念としてプレゼントした。浴衣姿の留学生たちは盆踊りなどの日本文化を体験。日本の夏を楽しんで頂いた。また子どもたちが多く参加したバスケットビンゴゲームの進行にも、彼らに協力して頂いた。

また8月31日には、全国の日本テレビ系列で年に1度放映されているチャリティー番組24時間テレビ「愛は地球を救う」に協力し、ボーイスカウトたちと一緒に募金活動を行った。当クラブが長年、ボーイスカウトの活動を支援していることが縁でこの募金活動に協力することになったものだ。スーパーの前で行われた募金活動では、ボーイスカウトの面々と共にメンバーが買い物客らに協力を呼び掛けた。

（PR・IT委員長／竹内尚平）

334-B地区

岐阜城ライオンズクラブ

FC岐阜の指導で サッカー教室を開催

8月21日、岐阜城ライオンズクラブ（桐山詔至会長／100人）はJ2で戦うFC岐阜のコーチとスタッフ十数人の指導によるサッカー教室を開催した。これは「青少年がスポーツを通じて強い精神力の持ち主に成長してほしい」と考え、企画した事業である。当クラブでは過去に女子ハンマー投げと円盤投げの日本記録保持者の室伏由佳さんらを招いた陸上教室や、元中日ドラゴンズの高木守道監督、巨人の高橋由伸選手らを招いた野球教室を開催する等、青少年の健全育成に力を注いでいる。

当日はまだ夏の暑さが残る青空の下、岐阜メモリアルセンター補助競技場に近隣の中学生120人余りが集まった。サッカー教室では、基本であるドリブルやパス練習、リフティング、シュート等を実施。自分で素早く考え、誰にパスをすれば良いかを瞬時に判断する力を身に付けられるよう、繰り返し練習が行われた。最後に生徒が紅白に分かれての練習試合を行った。日頃の部活動とは違ったプロのコーチによる指導の下、中学生たちは、汗だくになりながら緊張感を持って取り組んでいた。また、FC岐阜の元監督松永英機統括副本部長に、サッカーに取り組む心構えや技術、注意事項等を教えて頂いた。これを機に何かを学んでくれれば幸いだ。

当日は熱中症も予想されたため救護所を設置。近石病院医師のライオン近石登喜雄と看護師1人が待機して安全に万全を期した。

無事にサッカー教室を終えることが出来、ご尽力頂いた皆様に厚くお礼申し上げたい。

（第2副会長／稲田憲三郎）

333-D地区

群馬県・玉村町ライオンズクラブ

高校生の自己アピール力を養う 模擬就職面接を実施

高校生就職選考解禁日が迫る9月2日、玉村町ライオンズクラブ（下田雅樹会長／68人）は就職試験に臨む地元玉村高校3年生23人の面接練習総仕上げと、自己アピール力の更なる向上を目的に模擬就職面接を実施した。

生徒にとって身近な進路指導教諭やPTA役員と相対する従来の模擬面接よりも実際の企業経営者である当クラブ・メンバーを相手にすることで、本番さながらの緊張感を体験してもらおうという試みだ。初対面の面接官との応対を経験することで、本来の実力通りに発言しスムーズに自己アピールする力を養うことを目的として始めた事業であり、今年度で3回目となった。

模擬面接は生徒1人に面接官2人の形式で実施。身なり・礼の仕方・面接時の姿勢等の外面、ハキハキと受け答え出来るか、協調性があるかといった内面のチェックを行い、アドバイスを交えながら質問を進めた。志望動機や高校生活、時事ニュースなど問答集に載っているような質問に対し、覚え込んできた言葉で回答する生徒が多いため、意表をつく質問を投げかけ生徒の動揺を誘う場面も作った。最初は緊張し発言に詰まっていた生徒も終了時には笑顔を交えながら返答出来るようになり、進路指導教諭から「初対面の大人相手に面と向かって意見を交わすだけでも生徒の経験値は上がる」との評価をもらった。メンバーは「生徒への問い掛けは自分への問い掛け。満足度の高い事業だ」との感想もあり、生徒とメンバー双方に有意義な事業であったと思う。

（PR情報委員／加賀美圭介）

334-D地区

富山県・魚津ライオンズクラブ

40周年記念事業として振り込め詐欺防止装置を寄贈

9月25日、魚津ライオンズクラブ（97人）は廣瀬和夫会長、清河高之40周年記念事業実行委員長他5人で魚津市役所市長公室を訪問し振り込め詐欺防止装置40台を寄贈した。老人クラブ会員の皆さんに貸与して頂く目的だ。

当クラブは結成40周年を迎え、記念事業を検討していた。その中で会計のライオン小坂愛香がこの事業を発案。近隣の被害やお年寄りが困っている状況を目の当たりにした彼女の強い要望だった。

富山県内の特殊詐欺被害額は過去最悪のペースで推移しており、被害者の約7割が高齢者。被害額は4億2千万円を超え、今も増え続けているという。市内でも魚津高校OBをかたった電話が続発。被害も出ていた。対岸の火事ではなくなったこの状況にクラブ三役は魚津警察署を訪問。署のアドバイスなども受けながら機器の購入を決めた。

装置は、固定電話に設置することで、30時間もしくは1千件の通話を高音質で録音出来るもの。また、電話をかけてきた相手に「この通話は振り込め詐欺などの犯罪防止のため、会話内容が自動的に録音されます」と警告メッセージを流し、犯人に対して抑止効果も働かせる。不審な場合は機器の「たいへんだぁ」ボタンを押すと、事前に登録した連絡先に「緊急事態発生」の音声と録音内容が流れる。SDカードを使って、録音した通話を取り出すことも可能だ。

最初の1台は、市老人クラブ連合会の副会長宅に設置された。副会長は「少し安心した。詐欺には気を付けたい」と話した。同犯罪撲滅の一助となることを願う。

（幹事／加藤樹永）

335-C地区

奈良県・橿原ライオンズクラブ

わかりやすく親しみやすい民話絵本の作成

橿原ライオンズクラブ（竹中邦夫会長／78人）は今年、結成50周年を迎えた。その記念事業として、ノーベル賞受賞者山中伸弥京都大学教授の講演会と、民話絵本の作成・配布を企画した。いずれも、次代を担う青少年の健全育成のための企画だ。

民話絵本の作成は、幼い子どもたちに友達や家族を大切に思う気持ちや古里を愛する心を育んでもらう目的がある。作成に当たって、教育委員会、市立図書館市内で読み聞かせするグループ、奈良芸術短期大の研修生に当クラブ・メンバーを加えた橿原市民話絵本を作る会を結成。こうして行政・市民・クラブが一体となって事業を出来るのは普段からクラブで連携を意識した活動を続けてきたたまものだ。

こうして、曽我町を舞台にタヌキが人間に恩返しする『きたばやしのたぬき』と香久山地区を舞台に天照大神が磐座（いわくら）に隠れる『天の岩戸と七本竹』が完成。どちらも分かりやすい内容と親しみやすい挿絵で、「感謝」「恩返し」など日本人の心を凝縮させた絵本となっている。各4千冊を市の幼稚園や保育所に贈り、子どもたちに読み聞かせてもらうと共に、市立、県内の図書館にも配布した。

この絵本は大人が子どもたちに読み聞かせることで、初めて目的を達するものなので今後の継続が課題である。だが、絵本の発表直後に近隣の幼稚園から、読み聞かせ会を催したいと要請があった。反応の早さに驚くと共に、今後もこの事業を継続するために努力していきたいと思った。

（50周年実行委員長／森本全彦）

LIONS ON LOCATION

タンザニア／ダルエスサラーム・ムジジマ ライオンズクラブ

糖尿病キャンプで啓発活動

タンザニア共和国は中央アフリカ東部に位置する共和制国家である。スワヒリ語を公用語とする数少ない国の一つだ。

このタンザニアでは近年、糖尿病患者が増えている。これはアフリカの他の国にも言えることだが、欧米型のライフスタイルが浸透してきていることが原因。しかし、多くのタンザニア人は糖尿病についての知識を持ち合わせていないのが現状だ。そもそも糖尿病という病気の存在自体を知らない人がほとんどだという。

そこで、ダルエスサラーム・ムジジマ ライオンズクラブはダルエスサラーム州キゴゴにある小学校で糖尿病キャンプを実施した。多くの医療関係者がライオンズの呼び掛けによってボランティアで参加。対象は現地の住民だ。当日は249人の診断とカウンセリングを行った。

その中で糖尿病と診断された人や、糖尿病の疑いがある人は専門のクリニックに付託されることになった。

この小学校は近所の人が誰でも場所を知っているため、会場に選ばれた。だが、実際に検査をするのは装備の整ったタンザニア糖尿病協会のトラックの中だ。ライオンズは他の機会ではなかなか医療行為を受けられない人々への支援としてこのキャンプを実施した。多くの人はこうした医学的なケアを、経済的な理由から受けられないのだという。

ダルエスサラーム・ムジジマ ライオンズクラブでは、この糖尿病キャンプに来た人に、併せて視力検査も実施。49人に眼鏡が提供された。

LIONS ON LOCATION

ルーマニア／ティミショアラ ライオンズクラブ、ティミショアラ・アイリス ライオンズクラブ

最新の人工呼吸器を寄贈

34歳になるダイアナ・シネロは2月3日、妊娠29週目にクララ・マリアを800グラムで産んだ。クララの体調は悪く、ダイアナは心配のあまり胸がつぶれそうだった。なぜなら、彼女は2年前に双子を流産していたからだ。

だが、クララは幸運なことに最新の人工呼吸器をつけて治療を受けることが出来た。これはライオンズクラブがティミショアラ・カウンティ病院に寄贈したもので、クララはそれを利用した最初の患者となった。この病院にはそれまで、赤ちゃんを延命させる設備が整っていなかった。人工呼吸器のおかげでクララの体調は徐々に安定してきた。ダイアナは一緒に家に帰る日を心待ちにしている。

ティミショアラは約32万人が住むルーマニア西部の都市だ。ここには二つのライオンズクラブがある。男性のみ36人が所属するティミショアラ ライオンズクラブと女性のみ21人が所属するティミショアラ・アイリス ライオンズクラブだ。両クラブはチャリティー・ダンス・パーティーを実施するなどして今回の事業資金を調達した。他にも視力検査の実施や盲導犬の育成、盲学校支援など視力関連のアクティビティを実施してきた。また、老人ホームへの支援や貧困対策の活動も行っている。

これら二つのクラブには医師が在籍している。そのため、病院でどの設備が不足しているかが分かるのだ。とはいえ、地域には他にもさまざまニーズがある中、高額な人工呼吸器を寄付するまでには葛藤もあったという。が、今では皆、正しい選択をしたと確信している。

3分間 ライオンズ アクティビティ編

視力保護・盲人福祉
献眼②

目が見える喜びを

ライオン誌では各クラブがeMMRサバンナを通じて報告したアクティビティを集計しています。これによると2013年度は全国で2653件、約9千万円の献眼アクティビティを実施、7780人のアイバンク登録者を得て、271人の角膜提供に携わりました。日本アイバンク協会発表の「年度別登録者数・献眼者数・移植者(利用個)数・待機患者数」によると、平成25年度の献眼者数は927人(1476人に移植)でしたので、その3割はライオンズを通じて提供された訳です。その一方、角膜移植の待機患者はまだ2207人もおり、前年度末から78人減っただけでした。毎年新規待機者が加わるため、それを上回る角膜提供がなければ、待機者は減らないのです。

それでは、一人でも多くの方が視力を取り戻すためにライオンズはどのような協力が出来るのでしょうか。アイバンク活動推進に著しい貢献をした個人・団体に贈られる今泉賞の平成25年度受賞者で、13年度のサバンナ集計で献眼登録者数が最多(350人)、角膜提供者数は2番目に多かった(35人。1番は22ページで紹介している小山ライオンズクラブの64人)静岡県・御殿場ライオンズクラブの例をご紹介しましょう。

献眼活動において最初の一歩となるのは、啓発活動を通じて理解者と協力者を増やし献眼登録を促進することです。御殿場ライオンズクラブは地域のさまざまなイベントに参加してブースを設け、これを行っています。また2年程前からは、御殿場市戦没者遺族会の会長の呼び掛けで同会から全面的な協力が得られるようになり、登録者が大きく増加しました。

7月25日、東京国際フォーラムで開催された第37回全国アイバンク連絡協議会の席上、日本アイバンク協会の金井淳理事長から今泉賞を授与される御殿場ライオンズクラブの鎌野茂樹会長(左)

地元新聞には毎回「御殿場ライオンズクラブで○人目の○○様が献眼」という記事が載り、市民に認知されているので、登録の有無にかかわらず、献眼の希望があると夜中でも担当メンバーに連絡が入ります。御殿場の場合、眼球を摘出する医師が東京から来るため、高速道路の出口で出迎え、提供者の家まで案内します。

眼球は脳死状態ではなく、心臓が停止し死亡が確認されてから摘出します。眼球摘出後は義眼を入れるので、提供者の顔が変わってしまうことはありません。マイクロケラトロンという器械を使って角膜だけを摘出する方法もあります。

御殿場ライオンズクラブでは、提供者の葬儀に生花と香料を贈り弔辞を読みます。また4年前には結成50周年記念事業として献眼の碑を建立。毎年厚生労働大臣から提供者への感謝状が届くと、碑の前で遺徳をしのび、これを紹介し贈呈しています。

現在全国には54のアイバンクがあり、それぞれ運営方法は異なります。御殿場ライオンズクラブの例を参考に、皆さんのクラブでの協力方法を考えてみてください。また各アイバンク間の連絡や、角膜移植調査研究の助成などを行っているのが公益財団法人日本アイバンク協会です。同協会では事業を推進するために協会認定サポーター制度を設けていて、個人で登録し協力することも出来ます。

自分の目が見えなくなってしまった時のことを、想像してみてください。そして視力を取り戻すことが出来たらどれほどうれしいかを。その喜びを移植を待つ全ての人に届けられるよう、奮闘していきましょう。

通じて誇りを高める

アクティビティの数々を紹介する

松本市南西部の弘法山古墳は桜の名所として知られる。長野県·松本アルプス ライオンズクラブが植樹したもので、山すそから山頂付近まで約2千本のソメイヨシノやヤエザクラで覆われ、春には全山薄紅色に染まる　写真／田中勝明

弘法山を桜の山に。30年間続く環境整備活動

長野県·松本アルプス ライオンズクラブ

松本アルプス ライオンズクラブ（60人）は結成20周年記念事業として1984年に弘法山に桜の苗木5千本を植樹し、それ以降も保護を続けている。

当時の弘法山は、外来種であるニセアカシアに覆われ、野犬が徘徊するなど、大変荒れており、取り崩しが計画されているような状態だった。そこで当時の会長北原正昭が、「弘法山を桜の山へ」というスローガンの下、ニセアカシアの伐採と桜の植樹を発案、実行したのである。

この事業を行う際には、弘法山を管理する省庁からニセアカシア伐採の許可がなかなかおりず、規模が大きな事業であったため、期をまたいでの実行となるなど、かなり苦労があったようだ。だが、そういった困難を乗り越えて植えられた桜は、深く根付き、毎年奇麗に咲くようになった。

奉仕を

Strengthen the PRIDE

クラブが誇りを持って取り組んでいる

そして、結成50周年を迎えた今年。「『夢』いにしえの史跡から彩りを未来へ」というスローガンの下、再び桜の植樹が記念事業として計画された。これが実行されたのは、まだ肌寒い4月12日。近隣の小学生100人と、補助をしてくれた高校生200人、そして我々クラブ・メンバー、それぞれの「夢」を込めた100本の桜が弘法山に植えられた。この桜が花咲く頃、植樹をしてくれた子どもたちは大きく成長していることだろう。そんな未来でも変わることなく、この弘法山が松本の皆さんの憩いの場としてあり続けることを信じて、これからも努力し続けていく。

（会長／武居正芳、IT・PR委員長／塩原洋市）

少年アイスホッケー大会で成長した地元出身者が日光アイスバックスで活躍

栃木県・日光ライオンズクラブ

日光ライオンズクラブ（18人）は少年アイスホッケー大会を毎年開催している。日光では1925（大正14）年に古河電工アイスホッケー部が創部されるなど、アイスホッケーは冬を盛り上げる経済効果も大きい伝統的な人気スポーツだ。

こうした背景から、当クラブでは栃木県アイスホッケー連盟主管の下、地域の人々と共に「少年アイスホッケー大会」を立ち上げ、選手たちを育成し技能を継承する環境づくりに力を入れてきた。このアイスホッケー大会は40年の歴史がある。

廃部となった古河電工アイスホッケー部の伝統を引き継いだ日本初のプロ・アイスホッケー・クラブである日光アイスバックスには現在、当クラブの少年アイスホッケー大会を経験し成長した、高橋淳一選手を始め、新人の大津夕聖（ゆうせい）、寺尾勇利（ゆうり）選手が在籍。地元選手の活躍により、熱狂的な盛り上がりを見せている。

こうして当クラブの大会で育った

選手が各地で活躍していることは、アクティビティの成果として、誇りであり、伝統事業を継続する励みになっている。

「1試合でも多く、実践を経験したい」「（アイスバックスのホームである）日光霧降アイスアリーナで決勝戦を戦いたい」という子どもたちの願いをかなえるため、ゾーン内の各クラブに協力の快諾を頂いている。

豊かな自然の中で育つ子どもたちにたくさんの夢を託し、地域の人々に支えられながら、これからもホッケーの伝統を守り、発展させていくため、我々はまい進していく。

がんばれ、選手諸君!!!

（会長／高野良正）

尊き献眼者1500霊の遺徳をしのぶ会に思う

静岡県・小山ライオンズクラブ

小山ライオンズクラブ（小野健二会長／47人）は11月7日に結成50周年を迎えた。当クラブが献眼活動を始めたのは結成5年目のこと。会員とその家族全員が献眼登録することを目指し、不退転の決意で始めたと聞いている。それから45年が経ち、今年の9月20日に献眼者は1500霊に達した。また、小山町内の献眼者率は直近10年間平均で26％を超えた。

だが、この偉業がなされるまでに幾多の難関があった。まず、献眼登録をしてくれる人が少ない。いたとしても、いざ献眼のお願いをすると遺族の意向で断られることも多かった。だが、粘り強い説得を繰り返し、年月をかけて取り組んできたことで、徐々に成果が上がっていった。それに比例して会員の精神的、肉体的負担が増してきた。季節を問わず、曜日を問わず、昼夜を問わず、眼球摘出意思の確保及び提供者宅への医師の案内、摘出の立ち会いなどの激務。アイバンク委員の受け手がいなくなるほどだった。こうして何度も頓挫の危機に陥ったこの活動だが、45年間連綿と続き、実績を上げてこられたのは中途から会員全員がアイバンク委員となるという組織改革が功を奏したからだ。また、町当局及び遺族の理解と協力、そして日本大学を始め順天堂大学、東京大学などの大学病院のスムーズな眼球摘出対応のたまものでもある。

1500霊は通過点だ。だが、改めて献眼者の遺徳をしのびつつ、これからもライオンズ精神を発揮し、たゆまぬ努力を続けていく所存だ。

（50周年記念事業委員長／坂本全人）

市政を動かし、観光名所になったヒカリ藻の保護活動

千葉県・館山ライオンズクラブ

館山ライオンズクラブ（25人）は1997年からヒカリ藻の保護活動に取り組んでいる。ヒカリ藻は、光が当たると反射して黄金色に輝くことからこの名前が付けられ、千葉県・竹岡のものは「黄金井戸」と呼ばれ、国の天然記念物に指定されるなど、貴重な藻類だ。

ヒカリ藻を館山で発見したのは当クラブの会員だった。彼はヒカリ藻の希少性を知っていたため、各機関に保護協力の要請をしたが、関心を示したのは当クラブだけだった。当クラブでは社会福祉・環境保全の理念と一致することもあり、事業として保護活動を進めることになった。

当初、ゴミ捨て場同然だった現場は、当クラブの活動により見違える

ようになった。市政もその成果と重要性に対して関心と理解を持ち始め、案内指示看板とヒカリ藻説明看板が、教育委員会によって設置された。当クラブの活動によって市政が動いたことは大きな成果と言えるだろう。

ヒカリ藻は学術的研究が進んでいないため、当クラブではさまざまな機関に協力を要請、県立安房高等学校生物部顧問の青木先生が生物部で2年間研究してくれた。研究成果は日本学生科学賞県審査で最優秀賞の「県知事賞」を、中央審査では「文部科学技術大臣奨励賞」を受賞、更に国際学生科学日本代表として発表され、技術博覧会で見事世界4位入賞を果たした。

当クラブでは市政、地元の方々の協力を得て毎年保護活動を続けてきた。その結果、ヒカリ藻の生息地は現在、館山市の観光名所になり、神秘的な輝きを見に多くの観光客が訪れている。今後もクラブでは活動を続けていく。（会長／石井透山）

日本の音風景100選に選ばれた「ノーモアヒロシマ」を訴える平和の時計塔

広島鯉城ライオンズクラブ

広島平和記念公園の一角に広島鯉城ライオンズクラブ（55人）が寄贈した平和の時計塔がある。これは当クラブの認証10周年を記念して、１９６７年10月28日に広島市へ寄贈されたものだ。計画当初は広島平和記念公園の設計者である丹下健三東京大学教授が「聖地である広島平和記念公園内に（新たなモニュメント等を）建設することは好ましくない」と発言しており、市の方針もそれにのっとったものだった。そこで当時のメンバーが、上京して趣旨を説明し、同意を得て着工された。今では広島平和記念公園北側の景観に自然と溶け込んでいる。また96年にはこの平和の時計塔から奏でられるチャイムの音が広島平和記念資料館に展示されている鐘、常設の平和の鐘と共に環境庁（現・環境省）の将来に残したい音の聞こえる環境として「日本の音風景１００選」に選定されるなど、市民に愛されるものになっている。

この平和の時計塔は、高さ20メートルの3本の鉄柱に球体の時計を乗せたもの。毎朝8時15分にチャイムをならし、「ノーモアヒロシマ」を強く訴えている。

記念碑文には、核兵器の脅威と、ライオンズクラブが平和実現のために果たす役割の大切さなどを刻んでいる。

日本全国のライオンの皆さんが広島平和公園にお越しの際にはぜひ、我がクラブの誇りでもある平和の時計塔まで足をお運び頂ければと思う。当クラブの諸先輩方の功績に敬意を表し、今後も当クラブでは奉仕活動を続けていく。（会長／西広隆志）

クラブが誇り 敬愛する現役ご長寿ライオン

「クラブの誇るメンバーを教えてください」。本誌クラブ・アンケートのこんな質問に寄せられた回答の多くには、クラブの歴史と共に歩み続け、年齢を重ねてなお精力的に参加するメンバーの活動ぶりと、その人柄が記されていた。ライオン歴40年以上のキャリアを持ち、卒寿を超えてなお現役で活躍して「クラブの宝」と敬われるライオンたち。そのかくしゃくとした姿をご覧あれ！

奉仕の誇り高らかに

ライオン西尾吉兵衛
鳥取いなばライオンズクラブ
1918年生まれ、96歳／68年入会

この12月で96歳を迎えたライオン西尾の目下の目標は、ホールインワンを出すこと。月1回開かれるクラブのゴルフ同好会のコンペには欠かさず参加。10月のコンペで優勝し、ハンディは55から26になった。好きが高じて20年前に自宅3階の部屋をゴルフ練習場に改造し、コンペの前にはスイングのチェックに余念がない。

「こうして元気でゴルフを楽しんでいられるのは、ライオンズの仲間がいるおかげ。皆さんには本当に感謝

しています」と、常に穏やかな笑顔を絶やさないライオン西尾。同好会の仲間は既にホールインワン祝賀会の幹事を決め、その日を心待ちにしている。

楽しむことにかけては達人だ。ヨットに謡、絵画にカラオケ、ハーモニカなど、趣味は多彩。ヨットはここ2年ほどご無沙汰だが、チャンスさえあればまた海へ出たいと言う。夫人に先立たれてからは料理の腕も磨き、手料理と共に地酒1合の晩酌を楽しむのを日課にしている。得意料理はブイヤベースとハイカラだ。

現役なのは、楽しむことばかりではない。西尾医院の院長として、木曜と日曜の休診日を除く週5日の診療を続け、今も「西尾先生でなければ……」という患者さんが通ってくる。木曜日を休診にしているのは、毎月第1、第3木曜の昼に鳥取いなばライオンズクラブの例会が開かれるから。やむをえず例会を欠席するのは年に1、2回ほどのことで、昨年度は一度も休むことなく皆出席を果たした。

クラブ唯一のチャーター・メンバーであるライオン西尾には、46年にわたるライオン歴の中でも、特に誇りにしていることがある。ライオン西尾が第13代目のクラブ会長を務めた81年は国際障害者年。これに合わせて自ら発案して実現させたアクティビティが、「eye(アイ)のスタンバイ運動」だった。町で困っている視覚障害者を見掛けたら、笛の音で周りに注意を促して手助けをしようと、笛を配布して呼び掛ける運動だ。この活動は全国的にも話題になり、この年の地区最高アクティビティ賞を受賞した。

知恵を絞って奉仕することを何よりも誇りに思うチャーター・メンバーの精神は、鳥取いなばライオンズクラブに確かに受け継がれている。

青年のごとき「怪物」

ライオン鈴木米蔵
神奈川県・横浜磯子ライオンズクラブ
1921年生まれ、93歳／66年入会

「米蔵さん」。横浜磯子ライオンズクラブのメンバーはライオン鈴木米蔵をこう呼ぶ。以前クラブ内に3人の同姓が居たための呼び分けだったが、鈴木姓が一人になった今も名前で呼ばれるのは、親しみの表れだ。

「青年のごとく生命力にあふれ、すばらしい実行力を持つ。尊敬する先輩であり、目標です」。クラブの他のメンバーはそう話すが、目標に到達するのは簡単ではないだろう。

ライオン鈴木は1966年、横浜磯子ライオンズクラブにチャーター・メンバーとして入会。以来現在まで、継続してクラブ理事を務め続け、例会にも皆出席。クラブ会長を73年と05年の2度経験。その他各種委員会の委員長を歴任し、現在は会員拡大委員長として活躍している。72年に横浜磯子西ライオンズクラブ、74年に横浜洋光台ライオンズクラブと二つの新クラブ結成に尽力し、これまでに40人以上を入会に導いた。

昨年は92歳にして、名門・横浜カントリークラブ主催の「年間シニア優勝者による大会」にて見事優勝を飾った。

2歳年上の夫人もお元気で、おしどり夫婦そのものだ。常に健康に配慮し、努力を惜しまない米蔵さん。93歳の今も若々しく、思考力、声、体力、全て青年のごとし。決して体は大きくないが、尋常ならざる「怪物」の領域、というメンバーの言も。

しかし本人は至って謙虚だ。

「おかげさまで夫婦共々ぼけずに、多くの方々と対等に交流しております。これ以上の幸せ者は無いと感謝しております。ライオンズクラブに入会し、自分に無いさまざまな知識を身に付けることが出来ました。ライオンズが無ければ、今日の自分は無いものと思います。これからも、一日一日を大切にして生きていきます」

全身これライオン

ライオン本間勉
北海道・小樽ライオンズクラブ
1924年生まれ、90歳／66年入会

座右の銘は「平凡が幸せの証である」というライオン本間勉だが、彼自身は非凡な存在だ。

入会してから48年間、例会皆出席を続け、豊富な経験と知識を培ってきた。77年度にクラブ会長を務めた時のバイタリティーは、今も語り草だ。姉妹クラブの締結、レオクラブ及びライオネスクラブとの積極的な交流、労力アクティビティの増加、320人が集った小樽市内5ライオンズクラブの合同例会、そして合同アクティビティ……。アイデア会長と呼ばれ、求心力と遠心力のバランスを説き、実演して見せた。

そうして蓄えた財産を、今は惜しげもなく後輩に伝える。会員スピーチで登壇し、当時のライオンズの活動を紹介するクラブの語り部だ。クラブ・メンバーが肉体的にも精神的にも全身これライオンだった数十年前のクラブの熱気。ライオン本間を通して、当時に触れることが出来る会員たちは幸せだ。

そんな師であると同時に、ライオン本間の心は青年そのもので、愉快な仲間でもある。右の写真でライオン本間を囲むのは在籍6年未満のライオンたち。特別例会の2次会の席で、孫程の年のメンバーの話に耳を傾ける。似合いの派手なネクタイを締め、石原裕次郎の「赤いハンカチ」をアカペラで熱唱する。クラブの麻雀同好会名誉会長を務める麻雀好き。旅行や考古学が趣味で雑学博士。4冊の本を自費出版した。大の愛妻家でもある。

「いつまでも元気で、我々を本物のライオンに仕立て上げるために教育を続けてほしい」

クラブの後輩たちは心からそれを望んでいる。

厳しく、熱く、優しく

ライオン中山眞一
岩手県・盛岡観武ライオンズクラブ
1920年生まれ、94歳／70年入会

1965年、盛岡ライオンズクラブを発端に、日本ライオンズの歴史に残るアクティビティ「すずらん給食」が始まった。貧しい山間のへき地校で弁当を持ってくることが出来ない児童に、給食を提供する事業を展開。東京や横浜のライオンズを巻き込み、更には日本中のマスコミや時の佐藤栄作総理大臣を動かして、翌66年には辺地給食が国庫負担となった。ライオン中山がチャーター・メンバーとして入会したのは70年。「すずらん給食」はライオン中山にとって、同じライオンのメンバーの一人として最も誇りに思う原体験となっている。

そんなライオン中山は81年、クラブ結成10周年の特別委員長を務めた。記念事業として、岩手県営体育館の庭園に彫刻家・高田博厚氏によるブロンズ像「空」を寄贈した。拠出額500万円、高さ1・3メートルの像は、みかげ石の台座に乗り、体育館に向いている。そしてこの庭園は、毎年ライオンズ奉仕デーにクラブ・メンバーと地域市民が一緒に清掃奉仕活動を実施する、クラブと市民をつなぐ場となった。

60も半ばを超えて始めた陶芸の腕前は、既にプロ顔負けの域に達し、県の芸術祭でも2度の受賞歴がある。最近のホットな話題としては、一昨年の第60回332・B地区年次大会で、その功績をたたえ佐々木賢治地区ガバナー（当時）からアワードを贈呈されたこと。

長いライオン歴に裏打ちされて「ライオンズの神様」と慕われつつ、時に厳しく、そして熱くライオンズ・スピリットを語るライオン中山。共に健在でかくしゃくとされ、糟糠の妻

として夫を支える奥様と、優しく美しく人生を送るライオン中山に、クラブ・メンバーは敬愛と拍手を惜しまない。

ライオンと呼ばるる人

ライオン野口宏
長野県・松本中央ライオンズクラブ
1923年生まれ、91歳／71年入会

「事業を成功に導き、善良な生活を楽しみ／常に微笑をたたえ、人類を愛し／知識人の尊敬を集め／幼児たちに親しまれる人」

言わずと知れた「ライオンと呼ばるる人」の一節。

「まさにライオン野口宏そのもの。皆から尊敬され、若いメンバーから慕われ、例会やアクティビティにはほとんど欠席することなく精力的に活動する。偉大な大先輩です」と、ライオン大蔵章男は言う。

その歩く姿といえば、常に背骨がピンと伸びている。スポーツ万能で、高校時代には柔道部で団体優勝。現在も母校の柔道部顧問として後輩の育成に力を注ぐ。70歳を過ぎて始めたゴルフは年を重ねるごとに飛距離を延ばし、クラブのコンペでは若いメンバーもタジタジだ。

1965年から松本市民生児童委員を務め、92年には民生児童委員協議会会長に。同時に児童養護施設・松本児童園の理事長に就任して、以来12年にわたり園の発展と子どもたちの育成に尽くした。40年近くにわたる民生児童委員としての報酬は全て同園に寄贈し、その礎を築いてきた。この業績が認められ、99年に栄誉ある勲六等単光旭日章の叙勲を受けている。

叙勲の際のエピソード。仲間内で祝賀会を開こうとご本人に話したところ、当時の児童園はまだあらゆる施設が十分でなく、そのようなお金があれば園で使いたいからとやんわり断られてしまった。後に園長が話したところによると、ライオン野口は叙勲の記念として200万円近くを寄付されていた。

「まだまだ若い者には負けないという気持ちでいるが、若い人の感覚を吸収することも大切だと考えている。そしてどんなものにも感謝の気持ちを持つことを心掛けている」

ライオン野口のライオンズ活動における心構えだ。

何事もほどほどに

ライオン石屋寛治
石川県・金沢城北ライオンズクラブ
1917年生まれ、97歳／72年入会

琵琶湖の鮒ずし。琵琶湖産のフナと塩と米飯を乳酸発酵して作られる郷土料理である。97歳のライオン石屋寛治はこの鮒ずしが大好物。本人いわく、鮒ずしの乳酸菌が体に良い。加えて昔から続けている玄米食、そして外出してよく体を動かすことが健康の秘訣なのだ。安易に薬を飲まなかったから長生き出来たのだとも。100歳を目前に現役でライオンズ活動を続けるライオン石屋が、身を持って証明する。

ライオン石屋は72年に結成2年目の金沢城北ライオンズクラブに入会した。来年45周年を迎えるクラブにとって、この記念すべき年をライオン石屋と共に祝えることがこの上ない喜びであり、自慢なのだという。

「中庸は徳の至れるなり」

ライオン石屋の座右の銘だ。何事もやり過ぎず、遠慮し過ぎず、ほどほどに行動することが最高の人徳である、と。

身体に良い食事、適度な運動、ほどほどの行動による高い徳。これを長く続けることで生まれる大きな価値。金沢城北ライオンズクラブはこれをライオン石屋の教えとして、ぶれることなく過不足なく、調和を取りながら奉仕の道を歩むことを目指している。

■国際理事
西川義規
（兵庫県・姫路白鷺）

スコッツデール国際理事会の報告

10月5日から8日まで、ジョー・プレストン国際会長の地元アメリカ・アリゾナ州のスコッツデールにおいて国際理事会が開催されました。

さて、国際理事会会議の中から日本ライオンズに特に関係が深そうなものを幾つかピックアップ致します。

私が所属する財務及び本部運営委員会では、クラブの支払いについて、現在は滞納期間が120日を経過すると活動停止となる可能性がありますが、2015年7月1日からその期限が90日となることの確認がなされました。

また私はLCIF執行委員会にも所属しており、同委員会は理事会開会前の4日に開かれました。ここでは9月30日現在の会計報告、視力ファースト、ライオンズクエスト、はしか及び風疹に関する取り組みのパートナーシップ、四大交付金等に関する最新情報を審議しました。

その他の委員会からは次のような決議、報告がありました。

〈大会委員会〉トロント国際大会最終報告を発表。登録者数は1万6452人で、最も多かった国はアメリカの3496人、2位が日本で1576人

〈地区及びクラブ・サービス委員会〉「Your Club, Your Way（あなたのクラブ、あなたのやり方で）」の活用。会員の例会出席よりもクラブ活動への参加を重視することが反映されるよう検討。クラブ向上プロセス（CEP）をエクステンション及び会員増強部から地区及びクラブ行政部の所掌に移行

〈長期計画委員会〉クラブ強化のための戦略プラン。「100周年企画委員会」の名称を「100周年アクション委員会」に変更

〈会員増強委員会〉国際会長プログラムの一つである「アスク・ワン」が貢献し今年度第1四半期は30年来最高の会員増加実現の報告。210番目の新しいライオンズ国としてサントメ・プリンシペ民主共和国を承認

〈PR委員会〉100周年関連広告予算として今年度及び翌年度予算を120万ドル、2016-17年度予算を200万ドルへ増額を予告。ライオン誌のデジタル化によるコスト削減

〈会則及び付則委員会〉2016-17年度の国際第3副会長職導入に関する会則変更を2015年国際大会で会則改正案に加える件。国際理事会の指導力育成委員会の英語名称を「Leadership Committee」から「Leadership Development Committee」に変更する会則改正案

最終日の10月8日には晩餐会が開かれました。理事たちでプレストン国際会長のテーマ曲「STRENGTHEN THE PRIDE（誇りを高める）」を歌い、皆でハーモニーを奏でることが出来て、大変うれしく思いました。また翌9日にはメルビン・ジョーンズ記念公園ツアーに参加致しました。

次回の国際理事会会議は、2015年4月13日～16日、チェコ共和国のプラハで開催されます。

記念公園内に展示されているメルビン・ジョーンズの胸像

ライオンズ・ニュース・カセット

LIONS NEWS CASSETTE

次回国際大会は来年6月、ハワイ・ホノルルで開催

第98回ライオンズクラブ国際大会は、2015年6月26日から30日の日程でアメリカ・ハワイ州ホノルルで開催される。ホノルルが国際大会の舞台となるのは、76年、83年、00年に続き4回目で、前回のホノルル国際大会には日本から約5千人が参加した。来年の大会では山田實紘が、日本からは34年ぶり2人目となる国際会長に就任する。日本人国際会長誕生の瞬間に立ち会い、共に祝福する記念すべき大会となることだろう。大会の主会場はハワイ・コンベンション・センターで、3回の大会総会の他、展示やセミナーなどほとんどのプログラムがここで行われる。本部ホテルはワイキキ・ビーチの中心にあるシェラトン・ワイキキ。主な日程は左記の通りで、新国際会長の就任宣誓式は最終日30日の最終総会の中で執り行われる。

【主な日程】（10月末現在）

6月27日（土） 9時～　インターナショナル・パレード

28日（日） 9時半～13時　初日総会

29日（月） 9時半～12時半　2日目総会

30日（火） 9時半～13時半　最終総会

国際大会の登録には時期によって3段階の料金設定がある。早期登録（110ドル）の締切は15年1月9日、通常登録（150ドル）受付は1月10日～3月31日、4月以降及び現地での登録の料金は170ドルとなる。国際協会ウェブサイト（www.lionsclubs.org）内にある国際大会のページで、大会登録と公式ホテルの予約をオンラインで行うことが出来る。

LCIFがエボラ出血熱救援の用途指定献金受け付けを開始

10月31日、ライオンズクラブ国際財団（LCIF）のバリー・J・パーマー理事長はイギリス・バーミンガムで開催中のヨーロッパ・フォーラムにおいて、エボラ出血熱救援のために交付金15万ドルを拠出することを発表した。LCIFはエボラ出血熱救援の用途指定献金の受け付けを開始し、パーマー理事長は次のように述べてライオンズに協力を呼び掛けた。

「エボラ出血熱による死者数は5千人に迫り、推計4千人以上の子どもたちが孤児となりました。感染国では保健教育の欠如と拡大する食糧不足によって悲惨な状況が引き起こされています。ライオンズの皆さん、共に支援の手を差し伸べましょう」

多数の感染者、死亡者が出ている西アフリカのリベリア、シエラレオネ、ギニアでは、合わせて15クラブ、会員416人が活動しており、国際協会とLCIFは地元ライオンズと協力して支援活動を展開していく。

用途指定献金を行う場合は、LCIF献金報告用紙の特記事項欄に指定献金名、この場合は「Ebola」と明記する。LCIFウェブサイトではオンライン献金も受け付け中。

今年度第2回の国際委員会、全国ガバナー会

10月15日、山田實紘国際第1副会長、国際本部会員開発部のデイビッド・クリフォード部長らを来賓に迎えた第2回国際委員会と第2回全国ガバナー会が、東京・銀座で開催された。10月5日から8日にアメリカ・アリゾナ州スコッツデールで開かれた国際理事会の報告を各地区ガバナーにいち早く伝達することが、この会議の主要な目的だ。両会議では清水英徳、西川義規両国際理事から理事会の主な審議事項として、サントメ・プリンシペが210カ国目のライオンズ国として加わったことや、東洋・東南アジア及び南アジア・アフリカ・中東の両会則地域において家族及び女性にGMT、GLTと同じ構造の組織を設けるパイロット・プログラムを実施すること、ライオン誌のデジタル化などが報告された。

全国ガバナー会ではクリフォード会員開発部部長から、日本の会員増強に関するプレゼンテーションが行われた（写真上）。日本では昨年度、81%のクラブが新会員を迎え、うち91%が純増を果たし、全体で1万2834人純増という目覚ましい実績を上げたことを高く評価。一方で、新クラブ数が11クラブと前年の21クラブからほぼ半減している点と、女性会員の比率が世界平均（6月末26・2%）を下回っている（同20・7%）点については改善が必要だと述べた。今年度はジョー・プレストン国際会長の「アスク・ワン（1人誘おう）」の効果で会員増強は順調な滑り出しを見せており、日本でも9月末4281人純増と、昨年同月の3・5倍となっている。クリフォード部長は、会員増強には勧誘に加えて「会員満足」と「拡大」が重要だとし、会員の満足度を高めるために「クラブ強化への青写真」「あなたのクラブ、あなたのやり方で」「地域社会奉仕ニーズ調査」といった資料の活用を奨励。更に「クラブから『これまでこうしてきたから』あるいは『こうしなければならない』という言葉を取り除き、新しい考え方で運営を進める必要がある」と話した。また、協会の将来にとって新クラブ結成による拡大は最重要の課題であり、年度内に各地区に最低でも1クラブを結成することが望ましいと述べた。

複合地区100周年記念コーディネーター会議

10月15日、東京・築地のライオン誌日本語版事務所で複合地区100周年コーディネーター会議が開催された。国際協会は2017年に迎える創設100周年に向け記念事業を策定。その推進のため各レベルにおける委員を任命しており、今回の会議は会則地域副委員長を務める高田順一元国際理事の招集で、330～337複合地区

のコーディネーターが出席した。会議では、高田元理事が9月26〜27日にアメリカ・イリノイ州オークブルックで開かれた国際協会100周年実行委員会の内容を報告。その後、記念事業の周知や、国内における祝賀行事の在り方を問う意見聴取の方法などについて協議した。

本誌10月号既報の通り、クラブ単位で取り組む100周年記念奉仕チャレンジは既にスタートしており、国際本部への報告システム「My（マイ）LCI（エルシーアイ）」には、「視力」「青少年」「環境」「食料支援（飢餓）」の4分野を報告する欄が設けられている。100周年記念事業では全てのクラブ、全ての会員の参加が期待されており、地域のニーズを調べ、ぜひチャレンジして頂きたい。

1月のライオンズ世界奉仕週間に参加しよう

2015年1月10日から16日、世界中のライオンズが一斉に奉仕事業に取り組む「ライオンズ世界奉仕週間」が行われる。これは100周年記念奉仕チャレンジの一環で、協会の創設者メルビン・ジョーンズの誕生日1月13日を含む週に企画されたもの。ジョー・プレストン国際会長はジョーンズ誕生の地フォート・トーマスのあるアリゾナ州の出身で、国際会長テーマの中でも、創設者に敬意を表してその誕生日に奉仕事業を行うよう呼び掛けていた。

この特別な奉仕週間の参加方法は次の通り。

①事業を計画する：青少年、視力、食料支援、環境のいずれかの分野の奉仕事業を1月10日から16日の週に実施する

②事業を分かち合う：クラブの活動と奉仕の力を知ってもらうため、地域の人たちに共に参加してもらう

③事業を報告する：実施した奉仕をMyLCIで報告して、100周年記念奉仕チャレンジのバナー・パッチを受け取る

また、ツイッター、フェイスブックなどのソーシャルメディアで、#Lions100のハッシュタグを付けて事業の写真を投稿すれば、国際協会のフェイスブック・ページでシェアされる。

会議録

■**第3回ライオン誌日本語版委員会**（10月6日）①ライオン誌日本語版事務所の運営②2014年10月号（9月19日見本／9万7500部発行）出来③11月号記事内容の確認④12月号以降台割（案）と主要記事予定⑤その他

■**第1回複合地区会則委員長連絡会議**（10月8日）①連絡会議世話人、副世話人の互選②2014年会則・付則改正の確認③2014年トロント国際理事会決議事項要約の確認④前年度連絡会議からの申し送り事項⑤ライオンズ必携、ライオンズクラブ役員必携の製作

■**第4回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議**（10月27日）①秋季国際理事会報告②国際役員来日日程関連③第53回東洋・東南アジア・フォーラム（韓国・仁川）④前年度からの引き継ぎ事項への対応⑤各種報告及び確認事項⑥各種委員会・連絡会議及び要望⑦日本ライオンズ連絡事務所運営関係⑧GMTからのお願い⑨その他

新結成／解散クラブ

■**新結成クラブ**

東京ハーモニー（前田信哉会長／29人）▼10月24日認証▼スポンサー／東京新宿東、東京大江戸

東京MINATO21（小林眞理子会長／20人）▼10月24日認証▼スポンサー／東京三田

東京湧水（長谷山勝美会長／32人）▼10月24日認証▼スポンサー／東京田無

岡山ハーモニー（瀧原秀美会長／24人）▼10月30日認証▼スポンサー／岡山西

■**解散クラブ**

10月＝山梨アカデミー

訃報

■**元国際役員**

オライ鬼木雅治（新潟県・新発田）
10月18日死去。91歳。96年度333-A地区ガバナー、04年度333複合地区議長。

オライ炭竈好司（岐阜県・関）
11月2日死去。69歳。10年度334-B地区ガバナー、今年度地区GLTコーディネーター。

■**献眼者**

9月＝オライ川島公夫（静岡県・富士吉原）

◎ライオンとしての多大な功績をたたえ、ご冥福をお祈り申し上げます。

グローバル指導力育成チーム（GLT）

組織強化につながる指導力育成

クラブや地区を率いるリーダーが優れた指導力を発揮すれば、組織の力は高まり、
会員の維持や増強にもつながる。有能なリーダーを見いだし育んでいくために、
まずはローテーションを重視する従来の選出方法から脱却する意識改革が必要だ。

■**後藤隆一**（GLT会則地域副リーダー／元国際理事）　■聞き手／**佐藤義則**（ライオン誌日本語版編集長）

グローバル指導力育成チームの概要

佐藤　GLTはグローバル会員増強チーム（GMT）より遅れてスタートしたこともあり、クラブ・レベルにはまだ十分浸透していないように思います。まずはその目的についてご説明ください。

後藤　目的は大きく分けると二つあります。一つはクラブやゾーン、地区などあらゆるレベルでリーダーになる人を見付けだして、その人の指導力を育成することです。クラブのリーダーとして有望な人、地区であれば地区委員長や将来のガバナー候補、日本レベルで考えれば、国際理事にふさわしい人、更には国際会長を目指せるような人を見いだして育てる。これがGLTの一つ目の目的です。二つ目は既存のリーダーの指導力をより高めることです。リーダーの指導力が向上すればクラブ力あるいは地区力が上がり、それは会員の維持・増強にも直結します。

佐藤　もう一つのチーム、GMTとはどのような関係にあるのでしょう。

後藤　GMTは量、GLTは指導力育成を通じた質の向上が使命とも言えます。車の両輪に例えられる通り、片方だけが回転したのでは前に進みません。例えばGMTの任務にエクステンションがありますが、新クラブの支援を担うのはGLTが養成を推進する公認ガイディング・ライオンです。両チームは組織構造においても対になっていて、国際会長をトップに会則地域、複合地区、地区にチームが編成されています。GLTでは、日本が属する東洋・東南アジア地域のリーダーはカジット・ハバナナンダ元国際会長、副リーダーが私。日本のエリア・リーダーは大野元裕元地区ガバナーが330～333複合地区を、団英男元地区ガバナーが334～337複合地区を担当しています。

地区におけるリーダーの育成

佐藤　ライオンズの役職は1年任期が基本ですが、地区ガバナーやクラブ会長には「副」の準備期間があります。しかし地区で重要な役割を果たすゾーン・チェアパーソンにはそれがありません。その教育や質の向上はなかなか難しい問題です。

後藤　日本の場合、ゾーン・チェアパーソンの任命権は地区ガバナーにあることが、複合地区会則で定められています。しかし実際にガバナーが人選を行っている地区はごく少数です。輪番制のところがほとんどで、中には順番だから仕方なくやっているという人が出てきてしまう。まずは、地区ガバナーが人選し任命出来るようにして、しっかりと心構えを持った人に就任してもらうことです。教育の面では、地区全体のレベルアップにはゾーン・チェアパーソンの活躍が不可欠だとの認識で、新年度が始まる前の3月から5月にゾーン・チェアパーソン予定者の研修を開く地区がほとんどです。1泊2日でかなり内容の濃い研修を行う地区も増えてきました。

佐藤　将来の指導者となる人材を見付けて、育てるというGLTの目的は、今まさに必要なことだと思います。何か具体的な取り組みの事例はありますか。

後藤　335複合地区では、近い将来の地区ガバナーを育てるという明確な目的を持って「次世代リーダー育成セミナー」を開催しています。各ゾーンから推薦を受けた若手会員1～2人ずつを集めて行う年4回、2年間の研修です。335・B地区ではこのセミナーの修了生が副地区ガバナーに就任しました。GLTでは特に女性と若手のリーダー育成を強く推進しているところですが、真剣にこれに取り組もうとする地区が出てきています。その一方で、大半の地区で

はガバナーを輪番制で決めているためにリーダーを育てるという意識がありません。あるいはここ何年も自発的な立候補がないという地区もある。そうした中で、現状に危機感を持ちリーダー育成に取り組む地区が出てきたのはとても心強いことです。

クラブの活性化のために

佐藤　先ほどリーダーの指導力向上がクラブ力をアップさせるというお話がありましたが、クラブの強化を目的にしたクラブ向上プロセス（CEP）も提供されていますね。

後藤　CEPが目指すのはクラブの奉仕活動を活性化させると共に、洗練されたクラブ運営の実現により、会員の満足度を高めることです。クラブの現状を把握し、メンバーの話し合いによって目標を設定していきます。昨年度GLTでは、各地区へのCEPの浸透とファシリテーター養成に力を入れました。

佐藤　国際協会のウェブサイトでガイドが入手出来ますが、かなりボリュームがあります。どう手を付けていいか分からないというクラブも多いと思うのですが。

後藤　CEPには4段階のプロセスがあり、全て行うには5、6時間掛かります。大変かもしれませんが、これに取り組んでみるのであれば、地区がファシリテーターを派遣してくれます。ちょっと難しいという場合は、「地域社会奉仕ニーズ調査」や「あなたの評価は?」の部分だけやってみるとよいでしょう。「地域社会奉仕ニーズ調査」は地域のさまざまな団体にアンケートを取り、クラブのアクティビティを検証するものです。「あなたの評価は?」の方は、メンバーのクラブに対する評価を調べるもので、例会で行うことが出来ます。これらの調査結果を例会で話し合うだけでも、一歩前進になります。実際にCEPをやったクラブからは、特に古参メンバーに好評だったという話を聞きます。これまでメンバー同士で議論する場がなかったが、やってみたら面白いということのようです。今年度はもう一つ、「クラブ強化への青写真」という新しい道具が出来て、GLTとしてクラブへの普及に取り組んでいるところです。これは評価、目標設定、青写真すなわち行動計画の3段階で完了するもので、CEPよりも手軽に行える内容になっています。

クラブの活性化には、より多くの有能なリーダーの輩出という効果もあると期待しています。

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズ新書／ライオンズ文庫

ライオンズ新書01 ライオンズ力を高める

ライオンズクラブの歴史や組織からクラブ運営の全般までを、分かりやすく系統的にまとめた。1983年に刊行した『ライオンズ スピリット』の後継書。

新書判 224ページ 1部500円･送料実費
※50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引
100～499部＝1部450円／500部以上＝1部400円

ライオンズ新書02 LCIF早分かり

ライオンズクラブ国際財団の目的やその仕組み、寄せられた献金がライオンズの人道奉仕にどのように生かされているかなど、LCIFの概要や意義をまとめた。

新書判 176ページ 1部400円･送料実費
※50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引
100～499部＝1部350円／500部以上＝1部300円

ライオニズムよ永遠に

ライオンズクラブの創設者メルビン･ジョーンズの生涯を時代と共に活写した労作。

B6判 224ページ 1部800円･送料実費

ウィ･サーブ

日本にライオンズクラブが誕生した1952年から2002年まで、日本ライオンズ50年間の歴史。

B6判 332ページ 1部800円･送料実費

『ライオン誌』創刊号復刻版

1958年創刊の『ライオン誌』日本語版を復刻。誌面から草創期の活気がひしひしと伝わってくる。

B5判 68ページ 1部300円･送料実費

ライオンズスクール･シリーズ

初級編･ライオンズクラブ入門

第3版第4刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ 1部400円･送料実費

中級編･クラブ運営の基礎知識

第3版第3刷

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ･ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判 64ページ 1部400円･送料実費

上級編･リーダーシップを養う

第1版第5刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ 1部400円･送料実費

※ライオンズスクール･シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100～499部＝1部350円／500部以上＝1部300円

■お申し込みはEメール（office@thelion.jp）またはファクス（03-3546-2630）でお願いします。

LCIF FILE

LCIF Development Update

LCIF Development Update

LCIF創設50周年記念目標達成への道④

LCIFは前期2012・13年度から、LCIF創設50周年記念目標を設定し、6年間の献金計画をスタートさせました。日本も同じように献金目標を設定しましたが、期間は3年間ずつ2回に分けたものになっています。

この件に関しては本誌1月号の本欄でご説明しましたが、献金目標運動に対する理解度には地区間でまだ差があるようです。そこで今回、献金目標に関して再度ご説明し、ご理解を頂きたいと思います。

まず、LCIFは09〜12年の3年間の平均3260万ドルをベースに、最初の12〜13年度は4・2%増、昨年度(13・14)は前期の5・0%増、本年度(14・15)は前期の7・5%増という目標を設定。これを達成すると、この3年間の総額は1億7770万ドルとなり、09〜12年のベースに対し10・2%増加することになります。

日本も同様に09〜12年の3年間の平均7億8100万円をベースに目標額を設定しました。ただし、LCIF全体では10・2%増を目標にしているのに対し、日本は5%増にとどめました。というのも、09〜12年には東日本大震災による多大な献金が包括されていることを考慮し、達成可能な数値として5%増を設定したものです。12〜15年に、目標通り毎年度5%アップを達成出来た場合、3年間の献金総額は24億6千万円に上ります。

これに対する、直近9月度の日本の総献金額は1億3528万2268円でした。7月度6650万1428円、8月度8602万1002円に比べ、それぞれ103%増、57%増と大幅な増加が見られ、目標達成に向け、皆さんが真剣に取り組んでくださっていることが感じられます。

通算では左表の通り15億9204万4352円で、目標達成率は先月から5・5ポイントアップの64・7%となりました。9月度で27カ月、つまり3年計画の4分の3が経過したことになります。準地区別では331・B、332・E、335・Dの3地区が90%を超えて目標達成に迫り、目標を完遂した2地区を含め14地区が達成率75%を上回っています。

残り4分の1の期間での目標達成に向け、ご協力賜りますよう、切にお願い申し上げます。

(LCIF国際委員、エリア・コーディネーター/桜井孝一、澁田繁晴)

■LCIF創設50周年記念目標

地区別献金目標額と目標達成への必要額(円) 2014年9月30日現在

地区	3年間目標額	献金実績	達成率	目標達成必要額
330-A	78,610,732	44,916,870	57.1%	33,693,862
330-B	155,407,170	117,456,134	75.6%	37,951,036
330-C	28,515,146	14,742,449	51.7%	13,772,697
331-A	74,301,215	60,638,754	81.6%	13,662,461
331-B	24,988,116	22,833,427	91.4%	2,154,689
331-C	29,900,483	10,320,173	34.5%	19,580,310
332-A	25,714,137	16,818,461	65.4%	8,895,676
332-B	26,621,140	17,535,440	65.9%	9,085,700
332-C	19,678,628	25,503,895	129.6%	★目標完遂
332-D	36,951,532	42,006,120	113.7%	★目標完遂
332-E	13,525,171	12,440,147	92.0%	1,085,024
332-F	9,148,074	5,782,824	63.2%	3,365,250
333-A	45,735,000	28,766,247	62.9%	16,968,753
333-B	33,824,952	23,252,598	68.7%	10,572,354
333-C	47,912,696	41,090,833	85.8%	6,821,863
333-D	41,663,400	31,003,260	74.4%	10,660,140
333-E	67,666,459	52,371,060	77.4%	15,295,399
334-A	343,652,981	252,111,501	73.4%	91,541,480
334-B	82,442,179	64,531,718	78.3%	17,910,461
334-C	62,778,240	47,569,015	75.8%	15,209,225
334-D	56,337,691	50,047,145	88.8%	6,290,546
334-E	52,984,008	42,345,494	79.9%	10,638,514
335-A	27,011,634	22,934,904	84.9%	4,076,730
335-B	267,297,822	105,814,739	39.6%	161,483,083
335-C	139,334,483	61,077,748	43.8%	78,256,735
335-D	26,881,392	24,634,830	91.6%	2,246,562
336-A	105,422,415	56,944,417	54.0%	48,477,998
336-B	54,205,075	22,815,335	42.1%	31,389,740
336-C	82,736,682	59,566,320	72.0%	23,170,362
336-D	44,545,115	29,248,791	65.7%	15,296,324
337-A	158,338,840	77,383,231	48.9%	80,955,609
337-B	47,676,318	32,269,072	67.7%	15,407,246
337-C	69,087,180	35,806,660	51.8%	33,280,520
337-D	49,155,427	24,753,146	50.4%	24,402,281
337-E	22,580,621	14,711,594	65.2%	7,869,027
全国	2,460,507,153	1,592,044,352	64.7%	868,462,801

●岩手県陸前高田市

高田大隅つどいの丘商店街

高田大隅つどいの丘商店街の店主らが、10月1日から3日間の日程で新潟県長岡市と小千谷市を訪問。新潟県中越地震から10年が経った被災地の復興ぶりや商店街の取り組みなどを視察した。これは、復興の実体験を通じた中越地方の商店主やNPOなどのノウハウから、震災復興へのヒントを得ようと企画され、高田大隅つどいの丘商店街と中越防災推進機構が連携して実施された。

初日は全村避難を経験した旧山古志村（現長岡市山古志）を訪問。土砂崩れにより川がせき止められ、集落全体が水没してしまった木篭（こごも）地区では松井治二区長と懇談。松井区長は「失って初めて古里の大切さに気付いた。でも無くしたことで新しい町づくりが出来る。現在、集落で作った産物の直売所を設けているが、被災地だからと甘えず、きちんとした商品づくりに取り組んだ。その結果、真剣にやっているということを知ってもらえ、10年経った今も多くの人が来てくれる」と話した。そして、訪問者の中には長く木篭を応援してくれる人たちもあり、そうした人たちと住民とで「山古志木篭ふるさと会」を結成、会長の松井さんを中心に交流の輪を広げているという。

更に2日目には「東小千谷夢あふれるまちづくり活性化協議会（東夢協）」の取り組みを聞いた。その中で強調されたのが、「コミュニティー無くして街の復興なし」ということだった。「どんなに立派なハード（商店街）が出来たとしても、その場所を恒常的に利用する人がいなければ成り立たない。店があるから人が集まるのではない。利用者を無視した街の構造では住民の満足度は上がらない」との話があった。また車での移動を前提にすると、郊外の大型ショッピングセンターへ行ってしまうため、商店街は徒歩やバスで行ける生活圏内にあることが重要だとの指摘もあった。そのために東夢協では空き店舗を活用し住民が集える場としてカラオケルームを作ったり、高齢者の利便性を考え協議会として総菜店をオープンさせたり、コミュニティーバスを走らせたりといった活動をしている。陸前高田ではそれぞれの事情を優先して復興を進めた結果、失われたコミュニティー機能をどう再生するかが、今後の課題の一つとなっているだけに、こうした話はとても参考になったようだ。

●宮城県南三陸町

南三陸さんさん商店街

7月23日、天皇・皇后両陛下が南三陸さんさん商店街（正式名称：南三陸志津川復興名店街）を訪れ、本格復興を目指す商店主たちを激励された。

両陛下は、老舗かまぼこ店「及善蒲鉾店」の及川善祐らと懇談。及川が、これまでの苦労を伝え「何があってもがんばります」と話すと、両陛下は「お店が良い発展をするよう願っています」と励ましの言葉を掛けられた。

また、写真店「佐良スタジオ」では、店頭に飾られた震災前後の写真を見比べ、「こんなにきれいな街だったのに、全て無くなったんですね」と、悲しげに話された。店主の佐藤信一が「街の復興を撮り続けていきます」と話すと、陛下は「貴重な記録ですから、いつまでも撮影してくださいね」と語り掛けた。

商店街のシンボル・モアイ像

南三陸さんさん商店街は2012年2月に開設され、飲食店や食品店など32店舗が営業している。オープン以来、連日多くの観光客でにぎわい、特に土日は大型観光バスも入り、南三陸の活性化と発展に寄与している。そしてその貢献が認められ、今年3月には経済産業省の「がんばる商店街30選」に選定されている。

商店街には、及川、佐藤の他にも、阿部英世（衣料品店「アベロク」）、阿部雄一（菓子店「雄新堂」）、三浦洋昭（鮮魚店「マルセン」）、山内正文（食品店「ヤマウチ」）も入っている。乗用車200台、大型バス50台が入る無料駐車場を完備、更にJR気仙沼線BRT（バス高速輸送システム）の停車駅になるなど、街の中心的機能も担っている。

南三陸では毎月最終日曜日に福興市が開催されているが、月ごとに目玉の海産物が登場する。今後の予定としては、11月に志津川湾イクラまつり福興市、12月志津川湾おすばで祭り福興市（おすばで＝酒の肴）、1月志津川湾寒鱈まつり福興市、2月志津川湾カキまつり福興市、3月志津川湾ワカメまつり福興市と続く。新鮮な海の幸を味わいがてら、ぜひ元気なさんさん商店街を訪問して頂きたい。

南三陸の寒鱈（福興市にて）

3.11リレー連載④

笹かまぼこで笑顔を届けたい

佐々木 圭亮
（宮城県・名取ライオンズクラブ）

ささき・けいすけ　1951年名取市生まれ。㈱ささ圭代表取締役。98年名取ライオンズクラブ入会。02年名取つばさライオンズクラブへ転籍。06年度クラブ会長。14年名取ライオンズクラブへ転籍。

あの日は、宮城県名取市閖上の本社工場におりました。応接室で打ち合わせをしていた時、突然大きな揺れがきたのです。今まで経験したことのない異様な揺れはなかなか収まらず、ロッカー、額、書棚等、あらゆるものが倒れ散乱しました。壁にしがみついていた自分の身体がドーンと突き飛ばされ、やっと揺れが収まりました。その後もしばらく余震が続き、地震発生から10分程して、全社員にすぐに帰るよう促しました。

社屋点検のため敷地内を見回っていたところ、「（約30キロ北東の）女川町に9メートルの津波が来る」と、妻が車のテレビを見て駆け込んできました。「閖上にまさか津波が来るだろうか」と心の隅で思いながらも、最後に2人で逃げるように工場を出ました。町内の本店工場へ行って開け放しになっていたシャッターを閉め、とにかく西の方へと車を走らせました。閖上の入口にある五差路を私たちが抜けた10分後の3時52分、津波が到達しました。

3日後の14日、自衛隊ががれきをかき分けてやっとつけてくれた道をたどり、閖上に戻りました。三つの工場は全て全壊流失。自宅も跡形も無くなっていました。がれきの中にやっと土台らしきものが確認出来、茫然自失となりました。

翌日から社員の安否を確認するために、各避難所、市役所を回り始めました。このままではとても再建は難しいと、社員には苦渋の決断を告げざるを得ませんでした。

その後、市役所内に相談コーナーを開設していた社会保険労務士の方に呼ばれて、思い掛けなく相談に乗って頂くことが出来ました。「社員の解雇だけは回避して、休業という形にして何とか復活の道を探ってみては」等の助言を頂きました。更に「それでもダメだったら、諦めもつくのではないですか」という言葉に、小さな希望を頂いたのでした。

製造ラインが無いなら、50年前の手法で手焼きのかまぼこを作ろうと思いました。6月いっぱい掛けて店舗を改造、7月に「手造りかまぼこ工房」をオープン。91歳の父と85歳の母が現役復帰して、従業員に焼き方を教えました。震災から4カ月目にして、やっと製造することが出来、笹かまぼこを「復興手わざ笹かまぼこ『希望』」と命名しました。多くの方が喜んでくださって夢のようでした。ただ、手造りのため造れる枚数に限りがあります。機械生産工場再建を待ち望む声をたくさん頂いて、「いつの日か必ず本社工場を」という思いが私の心から消えることはありませんでした。

その後、再建の道を探るべく中小企業グループ化補助金の申請、認定を受け、やっとの思いで12年9月、悲願の新工場を竣工することが出来ました。

震災以来、名取つばさライオンズクラブの皆様からの励ましやご支援、LCIFの援助金、また『ライオン誌』の震災関連記事をご覧になった全国のライオンの皆様からも弊社の笹かまぼこをご利用頂くなど、感謝し尽くせないほどです。全国の皆様に笑顔になって頂けるような笹かまぼこを造ることで、頂いたご恩にお返し出来ればとの思いで、毎日元気に復興への道を歩み続けています。

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領：
会員及び家族によるエッセー、提言など。1,600字程度

68年目の原爆回想記

植野 克彦（高知中央）

1945年、私は裁判官の父と姉、兄2人と共に広島市内の大手町で暮らしていた。母は幼い2人の妹と末の弟を連れて、県西部の山間の町、西城に疎開していた。

あの日の朝、広島高等師範学校付属中学1年生だった私は、同級生15人と数人の上級生と共に、近くの農園に向かっていた。爆心から1・5キロの木造建築物が密集する地域の狭い路地を歩いていると、一瞬辺りが真っ白になり、気が付いたらうつぶせに倒れ込んでいた。布団の上からたたかれているような衝撃を何度か感じたような気がする。

近くのガスタンクが爆発したのだろうと思いながら、恐る恐る目を開けると、何と建物の下敷きになっていたのである。

辺りは静まり返っていた。怖くなって「助けてくれ」と何度も叫んでいると、「おい、おい」と応える複数の同級生の声が聞こえた。がれきの下からどうにかはい出すと、2人の同級生だった。今までさんさんと照っていた太陽が見えなくなっていた。

いったん学校へ戻り、上級生らと一緒に路面電車の軌道を頼りに病院のある宇品を目指した。

「お前、けっこうやられているぞ」

後ろを歩いていた友人に言われ両脇腹を見ると、黒くビラビラした何かが垂れ下がっていた。着ていた半そでシャツが破れたのだろうと思ったら、背中の皮だった。それなのに痛みは少しも感じなかった。

イラスト／小川和政

病院はけが人であふれていた。息苦しくなって、このまま死ぬのじゃないかと思った。病院で順番を待つのが耐えられず外に出た。巨大な入道雲のような噴煙が空いっぱいに見えた。

夕方になって、家に帰るという他の生徒の後ろを歩いたが、途中で力が尽きて路上に倒れ込んだ。幸いなことに通りがかりの兵隊に助けられ、たどり着いた兵舎で意識を失った。

その夜から昏睡状態が続き、十日ほど経って覚醒すると、大竹町の国民学校に寝かされていた。その時は既に戦争が終わっていて、担当の軍医の言葉がすぐには理解出来なかった。

やがて私を探しに来た母に連れられて県内で療養していたが、昭和20年の暮れ、父母の故郷・高知へ家族6人で移住した。父と姉、兄の1人は爆心地から近かったせいか、いまだ行方不明である。

私は銀行に14年勤めた後、妻の実家の陶器商を継いだ。82年に高知中央ライオンズクラブに入会。90年には中国景徳鎮を訪れて陶芸家諸士と知己を得、今も交遊が続く。背中と腕とふくらはぎにケロイドを焼き付けたまま、大病を患うことなく現在に至る幸運、一男一女を育ててこられたことに感謝してい

獅子吼

る。
　この間、私は被爆体験を語ることも、付属中の同級生を探すこともしなかった。被爆の事実は決して愉快なものとは言えず、思い出は固く封印したまま、引き出す糸口さえ見つけられなかった。
　転機が訪れたのは昨年のこと。広島県福山市在住の知人の講演会を主催した青年団体との出会いだ。戦争を知らない若者たちが23年間にわたり平和集会を続けてきたことを知ったからである。
　毎年8月6日の慰霊祭には、全国都道府県から遺族代表が1人招待される。68年を経過した2013年、被爆体験者が少なくなる中で私は高知からの招待者となり、新聞数社の取材を受けた。
　8月は原爆関連の報道が増える。4日付の産経新聞に、当時付属中1年生だった新井俊一郎氏の記事があった。まさに同期生のはず。申し訳ないことに彼の記憶は全くない。満足な授業も無かった戦時下、入学から数カ月のことでは記憶が希薄なのはやむを得まい。寛容のほどをと謝る次第である。
　5日正午。広島のバスターミナルに到着した私を、前述の団体職員2人が出迎えてくれた。昼食を共にしながらくだんの新聞記事を示したところ、即座に一人が
「知っています。母校の大先輩、同窓会の世話人のお一人です。すぐに連絡を取りましょう」
　彼は、広島高等師範学校が前身となった広島大学付属高校の74回生だった。
　8月8日、夜10時、教わった新井君の番号に電話を入れた。
「やあ、新井です。初めまして……じゃないよな……お久しぶり。長いよなぁ……」
　68年かけてたどり着いた旧友の言葉である。
　メールはだめ、パソコンもだめの化石的人間の私に、封書が届いた。とりあえず手元にある同窓会資料とのこと。その膨大な量は、空白の68年で萎縮した頭にスンナリ入るという訳にはいかないが、苦闘しながらもうれしくて楽しい時間である。
　幸い娘が窓口を開いてくれ、続々と現代の機器で連絡が入ってくる反面、返事は手紙でポストへという調子である。
　今は精一杯体験を伝えていきたいと、活動を続けている。

会員増強について

高桑　誠（北海道・湧別）

　湧別ライオンズクラブの現在の会員数は1977年の結成時の半分、18人です。
　これまでに辞めた方たちの退会理由は、主に会員同士の確執によるもの。会員維持には会員同士の人間関係が大きく作用するというわけです。
　また、新会員を増やす上で大きな原動力となるのも、クラブ内の円満な人間関係です。会員増強を図るためには、既存会員の資質向上から取り組まなければならないと思われます。
　昨年度開催された地区GLT委員会のワークショップでは、会員同士が互いの意見を尊重し、調和を図りながらアイデアを出し合うという、最良の協議手法を学びました。これを全クラブの全会員が体験し習得すれば、日々の例会の雰囲気も随分と変わるものと思われます。クラブ三役だけではなく、全員必須のプログラムとして実施出来

ないものでしょうか。
更にもう1点、クラブ活動の在り方について。
人に入会を勧めた際によくある断りの口上は「そんな高尚な柄じゃないから」「敷居が高くて」ですが、本心は「大したことはしていないのに会費は高い」というところでしょうか。

「ライオンズクラブの会員は皆、地域で尊敬され、活動内容も公共性、社会性が高く、地域に無くてはならない団体。いつかは自分も会員として迎え入れられたい」
そのようなイメージで周囲の人たちに認識されなければ、クラブの存在意義はありません。
本業が忙しく、クラブ運営まで頭が回らないと、活動内容がマンネリ化していきます。毎年変わり映えの無い活動が続けば、アクティビティの魅力が薄れ、新会員を探してこいと言われても、相手にとって迷惑なのではないかと遠慮がちになり、言葉に力が入りません。
このような悪循環を改善するには、活動のレベルを上げるための、会員の意識向上が必要です。そのためには毎回の例会が実り多いものでなければなりません。
例会は「会員が交代で講師となり、それぞれの専門、得意分野について発表する」「行政の都市計画情報、新規事業を聞く」など、幅広い分野の最新情報を収集出来る有意義な集まりにしなければなりません。特に情報第一の会社経営者にとって、ライオンズに入会することでこれらの情報が手に入るのであれば、頼まれなくても入会を希望するでしょう。
もう一つ必要なのは、会社経営者の心のよりどころになることです。会社トップは自己責任で事業方針を決定する立場。孤独な心情の方が多いようです。ライオンズは会社経営者、元経営者、年長者など、人生経験豊富な人が集まる情報集団。利害関係のない人と接し、語り合える場として、これ以上

岩手県大槌町の復興支援団体、一般社団法人「和RING-PROJECT」は東日本大震災で被災した人たちが、自宅や自宅周辺のがれきを拾い集め、一つひとつ手作業で作った「がれきのキーホルダー」事業からスタートしました。その後、2013年10月31日には、LCIF東日本大震災指定交付金を受け、「シェアファクトリー」を開所。現在、町内外の木工職人や大学機関と連携してテーブルや椅子などを製作しています。名入れも出来ますので、記念品や引き出物にもご利用頂けます。お気軽にお問い合わせください。

和RING-PROJECT
岩手県上閉伊郡大槌町小鎚第15地割67
TEL. 0193-55-5175
www.ring-project.jp
www.facebook.com/ringproject

のものはありません。
結論として、会員増強を打ち出す前に、会員減少の原因を特定し、これを改めなければ、せっかく入会した人もいつの間にか辞めてしまうということ。そして改めるべき点は改め、会員一人ひとりが変わる意識を持つことが大切だということです。
クラブ発足の原点に戻って、「自分はライオンとして周囲から尊敬に値する人間を目指しているか」「我がライオンズクラブは地域から一目置かれる存在として活動しているか」。これらを念頭に置いて、会員は個人として経済活動を行い、ライオンズの活動を語り合い、発信していくことが、会員増加につながるのだと思っております。
当クラブの状況から会員増強が進まない原因を考え、クラブに不足していると思われることを書きつづりました。GMT、GLT共に、その重要性を認識し取り組んでいきたいと思います。

Whats'ライオンズ

岩津 英資(東京霞ケ関)

330-A地区(東京都)には「Whats'ライオンズ」という集まりがあります。地区内200クラブ、5800人の中から有志が集まって「ライオンズとは何か」「我々は今何をなすべきか」を真剣に考え、実行し、試してみて、その中にライオンズの将来像を探ろうというサークルです。
集まるメンバーは100人に及び、所属クラブ数は30を超えています。仕事が終わる夕方6時、ライオンズだけでなく、各方面の奉仕団体――例えば青年海外協力隊、あるいは個人の活動家などもお招きし、月例会で情報交換をし、積極的な奉仕活動を展開しています。主なものを挙げてみますと

- ●地球温暖化による海面上昇で国土の大半が水没の危機に瀕しているツバル共和国の、島民に対する国土環境保全啓発のための出版事業を支援
- ●先輩ライオンズの「すずらん給食」に倣い、発展途上国での学校給食普及をLCIFやWFP(国連世界食糧計画)に提案する
- ●発展途上国などで貧困が原因で多発している、臓器売買や人身売買から子どもを守ろうという「かものはしプロジェクト」
- ●「歌を通じて手話を学ぶ勉強会」を広める事業
- ●映画「葦牙―あしかび―」の上映会を開催し児童虐待防止活動を支援
- ●大島の土石流災害やフィリピンの水害などに際しての募金活動
- ●広島の土砂崩れ現場での救出作業への参加

とりわけ3・11東日本大震災・津波の復興支援では精力的に活動しています。災害発生直後には何度も食料、衣料、医薬品等を運び、使用したトラックも何台かそのまま提供しました(提供者/ライオン目黒義繁〔東京霞ケ関ライオンズクラブ〕、ライオン瀧澤賢司〔東京隅田川ライオンズクラブ〕)。
ユニークなものでは「大熊手の奉納」があります。浅草「酉の市」の縁起物として知られる大きな熊手を、メンバーが住職を務める長國寺(ライオン井桁凰雄/東京浅草ライオンズクラブ)でおはらいをしてもらい被災地に奉納。鎮魂と復興祈願の支援をして「心のケア」になったと喜ばれました。
その他、岩手県大槌町での浄化槽設

置、宮城県山元町「民話の会」の鎮魂のお地蔵様の建立、岩手県宮古市の小学校・幼稚園への「鯉のぼりの寄贈」などにも参画しました。

8月29、30日の2日間は、24時間テレビでも紹介された山元町の障害者支援施設「工房地球村」の復興支援イベントに応援参加しました。

東京からはライオンズ・メンバーの他に盲目のフルート奏者・綱川泰典氏も加わり、レンタカーに分乗して朝7時に新宿を出発。昼前に阿武隈山荘で「やまもと民話の会」の心のケア支援公演に参加し、昼食後「工房地球村」に着きました。

敷地の一角にある「カフェ地球村」(震災後LCIFの援助も得て建てられた)で現地の方々と打ち合わせをし、テントの組み立てなど翌日のイベントの準備をしました。夕方は、地元・山元ライオンズクラブのお招きで懇親会。震災・津波被害の状況を伺い、復興への取り組みや将来への展望など熱い思いを承りました。

30日は前夜の雨も上がり好天に恵まれ、イベントには仮設住宅や近隣からお年寄りや家族連れが大勢来場され、大にぎわいでした。

私たち東京のライオンズからはリーダーのライオン屋代誠一(東京日本橋ライオンズクラブ)、ライオン高橋長生(東京レスキューライオンズクラブ)を始め27人、地元332・C地区は佐藤義則元地区ガバナー始め蔵王ライオンズクラブ(高野力会長)、山元ライオンズクラブ(高橋良一会長)のメンバーなど多数。中でも東京レスキューライオンズクラブの5人は広島で連日土砂災害の救援作業に従事した直後、遠路長駆して駆け付けました。

その他、東京及び宮城の大学生、東北各地の支援団体、遠く愛媛県からの友好団体、名古屋のお坊さんのライブ・グループ、宮城県岩沼市のコーラス・グループ、地元・山元町のママさんグループのフラダンスなども加わって大盛況でした。

私たちが企画した綱川氏のフルート演奏、同じく盲目のエレクトーン奏者・戸張友綺氏の演奏も流麗かつ力強い音色で人々を力付けました。

バザーでは地球村の手芸品、近隣の協力農家の産直農産物、愛媛県から出張販売の石窯焼きピザなども大好評。

私たちが東京から持ち込んだ焼ソバやかき氷も、500匹の金魚すくいも、全て完売しました。収益全額とドネーションを合わせて地球村に贈呈して感謝されました。

これからライオンズの活動について思うのは、価値ある継続事業に情熱を注ぐ一方、予期せず生じた事態にも即応し必要とされるサービスを提供することの大切さです。

まさに「What's ライオンズ」です。

音楽祭に合わせて万国旗で飾られた「コスキンくん」。町内には同じく交通安全塔を再利用してクラブが作ったPR塔がもう１基ある

ポンチョ姿の「コスキンくん」が出迎える「コスキンの町」とは？

のどかな農村風景に突如現れる「コスキンの町」の文字。いったいどんな町なのだろう。

「コスキン」はアルゼンチンの地方都市の名前だ。人口2万人のコスキンでは、10日間で延べ20万人が集まる盛大な音楽祭が開かれる。その祭を模して、川俣町の南米音楽愛好家が「コスキン・エン・ハポン（日本のコスキン）」を始めたのは40年前のこと。以来規模や形を変えながら、一度も途絶えることなく続いてきた。今では国内外から200組を超える演奏者が集まる国内最大級の中南米音楽の祭典に成長。10月第2土曜日から3日間の会期中は、山あいの小さな町に中南米の音楽とカラフルな色があふれる。

川俣ライオンズクラブは1980年からこの音楽祭の運営に協賛している。一度きりではあるが、会員で結成したグループがステージに立って演奏したこともある。音楽祭初日のコスキン・パレードは今年で16回目を数え、川俣ライオンズクラブは初回から参加。幼稚園児からお年寄りまで参加するパレードは、男性はポンチョ、女性は鮮やかなドレスを身にまとって登場し、大盛況となる。

「コスキンの町」のPR塔は、国道114号線の川俣町の入り口付近に立つ。以前はボウリングピン型の交通安全塔だったが、荒れたまま放置されているのを見かねて、川俣ライオンズクラブが14年前に再生させた。上に腰掛けている「コスキンくん」は、草原でケーナ（縦笛）を吹く男の子をイメージして製作した。

東日本大震災の原発事故により、川俣町の一部は帰宅困難地域に指定され、今も住民の避難が続く。しかし各地から寄せられる応援に力を得て、コスキン・エン・ハポンは震災の年にも例年通りに開かれた。町が元通りの穏やかな姿に戻れる日はまだ先だが、「コスキンの町」を挙げた祭典は今年も明るく、華やかに催された。

■川俣ライオンズクラブ（今泉一則会長／47人）＝1967年2月19日結成／青少年健全育成や地域に密着した事業に力を入れている。夏休み中にナイターで行う少年ソフトボール大会主催は今年で31回目。少年バレーボール大会協賛など、他にも青少年スポーツ関係のアクティビティは数多い。季節ごとの交通安全キャンペーンには毎回参加。長年、献血奉仕にも取り組む。震災後、風評被害による売り上げ激減などを理由に2人が退会して41人に減少したが、地道な活動を続ける中、共にがんばろうという30代、40代の若い世代が新たに加わり47人に増加している。

Close up

地元、牧之原市の魅力や社会問題をプロレスを通じて伝える

■沖本登志春

おきもと・としはる　1963年4月13日静岡県牧之原市地頭方に生まれる。84年～86年にかけてプロボクサー（バンダム級）として活躍。柔道二段。92年、㈲トシズ入社。2000年、同社代表取締役就任。08年9月、静岡県・榛南ライオンズクラブに入会。13年度クラブ会計。14年度社会福祉市民教育委員長。

牧之原でプロレスをやろうと思ったのは富士宮プロレスのホームページにたどり着いたことが始まりでしたね。富士宮プロレスは地域性を生かした興行をしていて、それが面白いな、と思いました。で、やってみようって。

元々、自分がプロボクサーだったこともあって、格闘技は好きなんですよ。特に昔ながらの、武士道の精神が流れてるものっていうかね。そんな好きなものの一つであるプロレスで地域活性化が出来たら最高だな、って。富士宮プロレスではゴミの不法投棄を擬人化してフホートーキーみたいな悪役を作ってる。こういうのってうちでも出来るんじゃないか、って思いました。地域の問題もプロレスにしちゃうってのがいいんですよ。

プロレスっていうと敷居が高いって思う人もいるかもしれないですけどね、実は誰でも出来るんですよ。うちには、当然格闘技が好きな人が多いけど、初心者もいっぱい来てます。もちろんケガの危険性もあるから、しっかりとトレーニングをしますけどね。トレーニングの方向は「強ければいい」みたいな路線とは少し違って、武士道を基本とした指導をしています。プロレスと武士道って重ならない人もいるかもしれないですが、やっぱり格闘技の基本ですから。

プロレスには受けの美学があるんですよね。相手の技を受けるための身体を作る。まぁ、相手を受け入れるようなことですね。その辺がさ、日本人の良い部分を表している面があると思うんですよ。で、そこはライオンズクラブの活動と通じるところもある。相手があって、自分がいる、みたいな。

うちでは年間大体1～2回イベントに参加しているんですが、そこではみんな基本的にマスクをかぶります。まぁ普通の会社員の人が多いし、顔出したくないっていうのもあるんですが、マスクかぶると、結構変わるんですよ。普段はすごくおとなしくて、プロレスなんかやらなそうな感じの人が、マスクをかぶるとリング上で大暴れ、みたいな。その人の隠していた部分が、顔を隠すと出て来るってのは面白いです。

今後も続けて、プロレスでね、この牧之原を活性化出来れば面白いな、と思っています。いつかライオンズでも周年行事とかでプロレスを披露してみたいと思いますよ。まぁ、やらせてもらえるか分かんないけど。

構成／井原一樹　写真／関根則夫

岩手県大槌町

新巻鮭

ライオン誌の事務所は築地にあるのだが、年末になると、築地の場外市場に新巻鮭が並ぶ。そしてこの新巻鮭発祥の地が大槌だと言われる。

慶長から元和年間というから、江戸開府前後のこと。大槌城主の大槌孫八郎政貞は、領内でとれる鮭を塩漬けにして江戸へ出荷。塩鮭は、人口が急増していた江戸で、「南部鼻曲がり鮭」の名で珍重され、大槌氏はこれで大きな利益を得たという。

初物好きの江戸っ子は、初鰹などと共に初鮭にも飛びついた。そんな人気の鮭を将軍に献上するため、鮭がとれる各地の藩では塩鮭を作り江戸へ贈るようになった。やがて、この風習が庶民にも広まり、歳暮の贈り物「新巻鮭」が定着したそうだ。

鮭は「裂ける」に通じ縁起が悪いと、お清めの意味で新しいわらで巻いたのが「新巻鮭」の語源と言われるが、他に荒縄で巻く「荒巻」、わらで巻く「わら巻」などの説もある。

●「ど真ん中・おおつち協同組合」
岩手県上閉伊郡大槌町赤浜1-226 赤浜加工場2番

ふるさと探訪

山形県 上山市（かみのやま）　取材／河村智子　写真／田中勝明

自然の恵みに体も心も喜ぶ 上山型温泉クアオルト

ドイツ発の健康ウォーキング

すがすがしい朝の空気の中、温泉街に近い花咲山に「ヤッホ！」の声が響き渡った。こだまがよく聞こえるように、語尾を伸ばさないのが上山式。毎朝6時50分に始まる早朝ウォーキングは、地元の人も温泉の宿泊客も誰でも自由に参加出来る。温泉宿の主人を案内役に、地元の自然や健康法について話を聞きながら、約2・6㌔のコースを1時間あまりで歩く。中腹にある神社の境内では、朝日を浴びながら体操し、大声を出してみる。この日の参加者は常連の市民4人に加えて宿泊客が4人。「上山型温泉クアオルト」を体験しようと名古屋から訪れたグループだ。

「クアオルト」はドイツ語で、長期滞在型の健康保養地・療養地を意味する。ドイツでは温泉や海、森林などを利用した自然療法が広く行われており、その治療や予防に適した場所には、厳格な審査基準の下でクアオルトの認証が与えられる。でも、なぜ上山でクアオルトなのか？ そもそも上山とドイツを結び付けたのは郷土出身の歌人、斎藤茂吉だ。ドイツ留学中の茂吉がドナウ川源流を訪ねて滞在した縁で、上山市はドナウエッシンゲン市と友好都市の盟約を結んでいる。これを機に2008年、里山や温泉といった地域資源を生かしたクアオルトによる町づくりがスタートした。

まず取り入れたのが、ミュンヘン大学の教授が提唱する気候性地形療法に基づいたウォーキングだ。太陽光や清浄な空気といった気候環境の中で運動して健康増進を図るもので、この療法に有効なコースとして、市内八つのウォーキング・コースが日本で初めてミュンヘン大学の認定を受けた。市街地に近い里山コースや、標高千㍍を超える蔵王高原坊平のコ

上山産米を始め、地元の農産物が味わえる「クアオルト弁当」。市内5社が作り、予約販売している

写真中央の三吉山とその奥の蔵王高原坊平にもクアオルト・コースがある。「毎日ウォーキング」に参加するには1カ月有効のウォーキング・パスか回数券(4回分)が必要で、料金はどちらも2千円

上山ライオンズクラブが寄贈したクナイプ式水治療法の設備。地下水にヒジまで浸すことで、持久力、免疫力アップなどの効果がある

ースがあり、高度や傾斜などにより難易度が設定されている。ウォーキングのポイントを一言で言えば、がんばり過ぎないこと。体力に合った歩行速度の目安として、160から自分の年齢を引いた数の心拍数を目標にしてペースを調整し、体温が上がったら上着を脱ぐなどして、体表

山形県 上山市（かみのやま）

県南東部に位置し、隣接する山形市、宮城県七ケ宿町との境界に蔵王連峰が連なる。上山藩の城下町であると同時に羽州街道の宿場町として栄え、また上山温泉は室町時代中期に開かれて温泉町としてもにぎわった。豊かな自然と食、温泉を生かし、ドイツのクアオルト（健康保養地）をモデルにした独自の町づくりに取り入れている。山形新幹線の「かみのやま温泉駅」があり、新幹線開業と同時に駅名が平仮名に変更されて以降、「かみのやま温泉」という平仮名表記が定着した。

総面積／240・95平方キロ

総人口／3万2392人（2014年9月30日現在）

【交通アクセス】

山形新幹線で東京駅からかみのやま温泉駅へ約2時間半

東北中央道の山形上山インターから市の中心まで約6キロ

上山
KAMINOYAMA

面を冷たくサラサラに保つよう心掛ける。

このクアオルト事業で特筆すべきは、いつでも、誰でも、一人でも参加出来るウォーキング・メニューが用意されている点だ。よほどの悪天候を除いて毎日行われる「毎日ウォーキング」と冒頭の「早朝ウォーキング」の他に、宿泊客がチェックイン前に参加出来る旅行者向け企画もある。「毎日ウォーキング」のコースは日替わりで、専任ガイドと共に2時間から3時間のウォーキングを行う。集合時間に集まれば誰でも参加出来、市民と観光客が一緒にウォーキングを楽しみ、触れ合えるところが大きな魅力になっている。昨年は延べ1万人余りが参加し、その6割が上山市民だった。市が行った検証では、ウォーキングを実践した市民には、中性脂肪の低下や心肺機能の向上といった身体的な効果に加え、「はつらつ感」などの心理的な効果も認められている。市民の健康増進と観光集客の二つの効果で町を元気にするのが、上山型温泉クアオルトなのだ。

かみのやま温泉の湯は無色透明、疲労回復や美肌効果があるという
（撮影協力：はたごの心 橋本屋／ライオン橋本利幸）

温泉町と城下町、宿場町の面影

かみのやま温泉は昨年、開湯555年を迎えた。1458（長禄2）年、月秀という旅の僧が、1羽の鶴が沼地に湧く湯で足の傷を癒やして飛び去るのを見て発見したと伝えられ、それに由来して鶴脛（つるはぎ）温泉の別名がある。上山には1535（天文4）年に武衛義忠によって上山城が築かれ、その後、奥羽13藩が参勤交代で利用した羽州街道が開かれると、温泉町、城下町、宿場町としてにぎわい、大いに栄えた。

現在の上山には、湯町、新湯、十日町、高松、河崎、葉山の六つの温泉があり、それらを総称してかみのやま温泉と呼ぶ。歴史ある湯の町らしく、市内には7軒の共同浴場がある。そのうち最も古い歴史を持つのが下大湯で、現在の建物は昭和32年に建てられたものだ。江戸時代の初めに、それまで浴場のなかった町方に湯を引いて領民に開放したのが、この下大湯の始まりだという。共同浴場の入浴料は150円。洗髪料の100円を払うと、洗髪券と書かれた札と蛇口のハンドルを渡される。料金を払った人だけが蛇口を使えるという独特の仕組みが面白い。また、上山城のそばや温泉街の一画など5カ所に足湯が設けられているので、温泉街を散策しながら足湯巡りを楽しむのもよいだろう。

代々、藩主の随伴役を務めた森本家の屋敷

かみのやま温泉発祥の地とされる湯町と新湯を結ぶ仲丁通りには、4軒の武家屋敷が並んでいる。上山城の北西に位置するこの一帯は、藩の要職にあった家臣が居住していた場所だ。現存する武家屋敷はいずれも鉤型の曲がり屋に茅葺き屋根という造りで、200年ほど前の建造と推定されている。つい最近まで住まいとして使われていたそうだ。道理で建物も庭もよく手入れがされていて、どこか生活の気配を感じさせる。

羽州街道の宿場の面影を残すのは楢下宿だ。上山宿を出て江戸へ向かうと次の宿場が楢下宿で、そこから難所の金山峠を越えれば伊達藩に入る。今はひっそりとした楢下の集落には、脇本陣の滝沢屋や庄内屋、旅籠だった大黒屋の建物が保存されている。

楢下宿を流れる金山川に架かる新橋。それまでの木橋がたびたび流失したため、明治初めに西洋の土木技術を導入して架けられた

▼取材協力クラブ

上山ライオンズクラブ（髙橋晃治会長／36人）＝1966年12月18日結成／スポンサー：山形ライオンズクラブ／行政との連携を図りながら地域のニーズに合った奉仕活動を展開。クアオルトによる町づくり事業にも協力し、花咲山の葉山コースに安全で歩きやすい歩道を整備した他、コース上の施設や案内板の設置なども行っている。また上山あららぎライオンズクラブと合同で、温泉街に近いウォーキング・コースの清掃や除草作業を実施。同じく2クラブの合同事業として、40年余りの歴史を持つ全国かかし祭に参加し、献血・献眼の協力を呼び掛けている。

読者から──10月号

■**事故の責任を意識しなければ**

「もう一度読みたい『あの記事』」が参考になった。

我々の奉仕活動の中には、以前からの継続事業である養護、整肢学校を対象とした事業が多い。今現在も、障がい者と健常者との歌、ダンス、バンドのコンサートを11月に開催予定で準備を進めている。これは今回で9回目となる継続事業だ。

当然コンサートについての綿密な打ち合わせをしているが、事故等が起きた場合についての話し合いは、あまりしたことがない。善意で開催している事業であるが、これからは更に人の命の尊さを重んじ、活動には大きな責任が伴うことを特に意識していかなければならないと思った。

鳥取県・米子城山ライオンズクラブ ●松浦孝保

■**家族会員を考える**

特に気になったのは、「特集・ライオンズクラブ統計」の中の女性会員・家族会員の推移や情勢図です。

昨年来、家族会員による会員増強が推進されています。山田国際第1副会長輩出の334複合地区で突出していることは分かります。

一方で、現在増加している2人目以降の家族会員は代議員算出に算定される正会員です。多くの地区で国際会費以外の会費の減免措置が講じられているようですが、「日本ライオンズ家族会員パイロット・プログラム」が終わった後、その会費負担が求められた場合にどうなるのか、それを危惧しながら読みました。

神奈川県・小田原白梅ライオンズクラブ ●大南修平

■**なっそが飲みたい**

以前、遠野で作られたどぶろく?を知り合いから頂いたことがあり、たいそうおいしかった。自分で購入したいと思ったが、特定の時期・指定された売店でしか販売されていないという話を聞いた。つまり、地元以外の人には手に入らない酒ということだ。

10月号の「ippin」で紹介されていた「なっそ」はそんな雰囲気があった。ぜひ飲みたいと思った。でも決して手に入らないだろうなあ。

青森県・弘前チェリーライオンズクラブ ●秋元義禮

(編) なっそは下記URLからお問い合わせ頂ければ購入出来るかもしれません。電話、メールアドレスが記載されています。

http://iyokannet.jp/spot/detail/place_id/4297/

●ライオン誌事務所来訪者芳名録

10 15 富山昭和 高田順一
10 15 東京目黒 富田純明
10 15 北海道黒松内 茂尾実
10 15 福島県白河小峰 安澤荘一
10 15 千葉県君津 正木守
10 15 静岡県富士タカオカ 大村行範
10 15 兵庫県神戸ホスト 森本克幸
10 15 岡山県倉敷中央 井上亮二
10 15 鹿児島県国分隼人 鬼塚俊郎
10 15 千葉県柏中央 後藤隆一
10 16 富山昭和 高田順一
10 17 山形県天童舞鶴 寒河江潤一
10 20 東京葛飾 奥山貞夫

読者プレゼント

■**大槌の新巻鮭の切り身を10人の読者に**

今月号ippin(48ページ)で紹介した、岩手県大槌町発祥の新巻鮭の切り身（3切入り）を、10人の読者にプレゼントします。「ど真ん中・おおつち協同組合」は東日本大震災で被災した大槌の水産加工会社4社が立ち上げた復興プロジェクトで、新巻鮭は古い歴史と伝統を受け継ぎ、「南部鼻曲がり新巻鮭」として全国に届けられている逸品です。

プレゼントをご希望の方は、はがきに「新巻鮭」と明記し、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は12月末日。応募多数の場合は抽選となります。

【宛先】〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階　ライオン誌事務所
＊オンライン応募はライオン誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp)の「ライオン誌日本語版」→「プレゼント応募」から。

〈56ページクイズの解答〉第1問=c.／第2問=a.／第3問=b.／第4問=a.／第5問=a.

『ライオン誌』バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

もう一度読みたい「あの記事」

●1968年10月号　盲人教育に尽した人々

「ルイ・ブライユ」

守屋正（京都紫明ライオンズクラブ）

パリの東北にクーブレーという寒村がある。ルイ・ブライユはここで1809年1月に生まれた。父は革工で馬の鞍を作っていた。ブライユが3歳の時、父の仕事場でナイフを扱っていたところ、手が滑って目を突き刺してしまった。目は一方を失明すると他方も失明する器官だ。ブライユはほどなく盲目となってしまった。彼は村の小学校に通っていたが、10歳となった19年、パリの盲学校に入学した。

彼の成績は抜群であり、向学心に燃えたブライユは便利な盲人用文字の発明のため、研究に取り掛かった。その頃、フランス陸軍の砲兵将校シャルル・バルビエが暗号からヒントを得て発明した点字が流通していた。だが、これは点の数が多く、不便だった。ブライユはこの点字の改良のため日夜苦心を重ねた。

ブライユは17歳で盲学校を卒業したが、直ちに盲学校の教師に任命された。ブライユは優しい親切な教師として生徒、同僚から慕われていた。教師生活を送りながら点字の研究に没頭した彼は29年、20歳の時にバルビエの点字の半数の点からなる3点2行の点字を作り上げた。その後彼は改良を加え、5年後に点字を現在の形に完成させた。彼は点字に関する論文をフランス・アカデミーに正式に提出し、盲教育に採用されることを希望したが、従来の浮出文字で盲人は教育出来るという理由で却下された。彼の点字は課外で教えることを条件に黙認されたのだ。

彼はアカデミーの却下以降、長年の無理が災いして肺結核におかされてしまった。病身の彼の孤独と絶望を救ったのは、彼を信じ尊敬して、課外でひそかに点字を習う少数の弟子たちであった。弟子たちは次第に点字を実用化し、世に広めていった。また、ブライユが発明した点字の楽譜によって、盲人の演奏者も出るようになり、それが彼の慰めでもあった。

51年12月。ブライユは突然大喀血をし、死の床に伏していた。そんな中、一つの不思議な事件が起きた。盲目の少女がパリの上流階級を前にしてすばらしいピアノの演奏を行った。聴衆の拍手は鳴り止まなかった。その時この盲目の少女が身を乗り出すようにして聴衆に向かい、「皆様お願いです。皆様の拍手喝采は私が受けるべきではありません。それは今死にかかっている私の恩師、私に点字楽譜を教えてくれたルイ・ブライユ先生の受くべきものです」と言った。聴衆は驚き、新聞が記事にしたことでブライユの存在が世に知られた。だが、既に彼の病状は悪く、翌年1月6日、彼はついにこの世を去っていった。

ブライユの死の2年後である54年、彼の発明した点字が偉大なものだとようやく学会が気付いた。そして、パリの盲学校で正式にブライユの点字が教えられるようになる。点字が発明されてから25年の時が経っていた。彼の点字は更に20年を経てイギリスに伝えられ、彼の名前が点字を意味するようになった。

クーブレーの村には彼の生まれた家が保存されており、その壁には次の文字が刻まれている。「その生涯中、真価を認められず、その死の時まで世人に知られることのなかったルイ・ブライユは、フランスの数ある栄光の一つである」

ライオン誌例会のススメ
―次の例会ですぐ使える情報

ライオンズ百科

■長寿アクティビティ

地域に必要とされるアクティビティは長く継続する。ライオン誌本部版にアメリカのクラブの長寿アクティビティが紹介された。75年間続くのは、カンザス州オーサワトミー ライオンズクラブのイースターエッグ探し。クラブは3千個のキャンディ入り卵を用意。参加家族には恵まれない家庭への食料品寄付を呼び掛ける。インディアナ州ベルサイユ ライオンズクラブは70年余り、町のパンプキン・ラブフェストに協賛。クラブで育てたカボチャを販売する他、クレーンと工業用はかりを使い大カボチャ・コンテストの計量も担当する。

日本では愛媛県・松山ホストライオンズクラブが開催する肢体不自由児ふれあいキャンプが、今夏で55回目を数えた。

1月号予告

LION

特集 **仁川フォーラム**

11月13～16日、韓国・仁川で開かれる第53回OSEALフォーラムの模様をリポート。またフォーラムに先立ち来日したジョー・プレストン国際会長の大阪と東京での公式訪問を取材。日本の会員に向けたスピーチの内容を中心に伝える。

クイズ de 例会

〈第1問〉ジョー・プレストン国際会長のテーマ、高めるものは何？

a. 品位　b. 評価　c. 誇り

〈第2問〉10月に国際理事会が開かれたプレストン国際会長の地元はアメリカの何州？

a. アリゾナ　b. アラスカ
c. アラバマ

〈第3問〉来年6月の第98回国際大会の開催地は？

a. トロント　b. ホノルル
c. 福岡

〈第4問〉指導者を見いだし育てることを使命とするグローバル指導力育成チーム。略して何？

a. GLT　b. GMT　c. GNT

〈第5問〉「ライオンズを探せ！」に登場した福島県川俣町は何の町？

a. コスキン　b. コスモス
c. コスプレ

★回答は54㌻下

この日・この月

1957年12月13～15日、フィリピン・マニラで**第1回アジア大会**が開催された。当時はクラブ数100を超える地理的領域に一つのエリアを設定することが出来、この年にフィリピンの提案によって、フィリピン、台北、香港、日本を含むエリア17が成立された。アジア大会はそのエリア17の大会で、今のOSEALフォーラムの前身に当たる。国際協会は現在、世界を七つの会則地域に分けており、日本を含む18の国と地域で会則地域5を形成。東洋・東南アジア・ライオンズ、略してOSEAL (Orient & Southeast Asian Lions) と呼ばれている。

今月号の記事から

今月号特集では、国際会長テーマにちなみ、クラブが誇るアクティビティと会員を紹介しました。自分たちのクラブが誇れる活動は何か考えてみましょう。もしすぐに思い当たらないようなら、アクティビティを検証するため、「地域社会奉仕ニーズ調査」を行ってみてはどうでしょう。ご活用ください。

■訂正とお詫び

11月号30㌻のライオンズクエスト交付金に関する記事中、「単独地区での申請の場合は20万㌦」の記載にある金額は、正しくは**「2万5千㌦」**でした。訂正しお詫び致します。

編集室

私が考えるライオンズクラブの原点

ライオン誌
日本語版委員長
◉
寺越愼一
（広島平和）

今年度、我が336‐C地区の松尾敏弘ガバナーのスローガンは『原点から再出発』We Serve」です。3年前の私のガバナー・スローガンは「原点回帰 We Serve」でした。これらのスローガンに掲げられた、ライオンズクラブの「原点」とは何でしょうか。

私はガバナーに就任した際、スローガンについて次の通り説明しました。

「私は父に『ライオンズクラブに入会させてもらえるような人間になれ』と言われ、父がライオンズクラブの活動に熱心に取り組んでいる姿を見て育ちました。29年前に父が亡くなり、私はライオンズクラブへ入会させて頂きました。入会した頃のライオンズクラブの姿に思いをはせ、スローガンを『原点回帰 We Serve』としました。社会、経済の変化、会員数の減少、公益活動を行う他団体の台頭などで、日本のライオンズクラブは転換期を迎えていると思います。

我々は、過去の慣例にとらわれることなく、今一度ライオンズクラブを見つめ直す必要があると思います。そしてそのプロセスにおいて重要なことは、変えるべきものは思い切って変える『勇気』と、変えてはならないものを継承し続ける『情熱』、変えるべきものと変えざるものを見極める『英知』ではないかと考えます。

そこで本年度はこのスローガンの下で、ライオニズムの基本に立ち返り精進を致すつもりです。『原点回帰』とは、物事の本質を見極め、根本に立ち返るということです」

これは当時行ったあいさつですが、現在の私が考えるライオンズクラブの原点を具体的に書き記すと、次のようになります。

「月2回の例会に、仕事等に支障のない限り（以前は必ずであった）出席し、グッド・スタンディングのメンバーと話し合って決議した活動に、家族と共に参加出来るものは家族ぐるみで、ライオンズクラブのメンバーとしての自覚を持って参加して、奉仕をする」

Official publication of Lions Clubs International

EXECUTIVE OFFICERS
President Joe Preston, Dewey, Arizona, USA; Immediate Past President Barry J. Palmer, North Maitland, Australia; First Vice President Jitsuhiro Yamada, Minokamo-shi, Gifu-ken, Japan; Second Vice President Robert E. Corlew, Milton, Tennessee, USA. Contact the officers at Lions Clubs International, 300 W. 22nd St., Oak Brook, Illinois, 60523-8842, USA.

DIRECTORS
Second year directors
Fabio de Almeida, Guarulhos SP, Brazil; Lawrence A. "Larry" Dicus, Whittier, California USA; Roberto Fresia, ; Alexis Vincent Gomes, Pointe-Noire, Republic of Congo; Cynthia B. Gregg, Belle Vernon, Pennsylvania, USA;Byung-Gi Kim, Korea; Esther LaMothe, Jackson, Michigan, USA; Yves Léveillé, Howick, Quebec, Canada; Teresa Mann, Hong Kong, China; Raju V. Manwani, Mumbai, India; William A. McKinney, Highland, Illinois, USA; Michael Edward Molenda, Hastings, Minnesota, USA; John Pettis, Jr., Merrimac, Massachusetts, USA; Carl Robert Rettby, Neuchatel, Switzerland; Emine Oya Sebük, Istanbul, Turkey; Hidenori Shimizu, Gunma, Japan; Dr. Steven Tremaroli, Huntington, New York, USA

First year directors
Svein ystein Bernsten, Hetlevik, Norway; Jorge Andrés Bortolozzi,, Coronda, Argentina; Eric R. Carter, Auckland, New Zealand; Charlie Chan, Singapore, Singapore; Jack Epperson, Dayton, Nevada, USA; Edward Farrington, Milford, New Hampshire, USA; Karla Harris, South Milwaukee, Wisconsin, USA; Robert S. Littlefield Ph.D., Moorhead, Minnesota, USA; Ratnaswamy Murugan,, Kerala, India; Yoshinori Nishikawa, Himeji, Hyogo, Japan; George Th. Papas, Limassol, Cyprus; Jouko Ruissalo,, Helsinki, Finland; N.S. Sankar, Chennai, Tamil Nadu, India; A.D. Don Shove, Everett, Washington, USA; Kembra L. Smith, Decatur, Georgia, USA; Joong-Ho Son, Daejeon, Republic of Korea; Linda L. Tincher, Riley, Indiana, USA.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

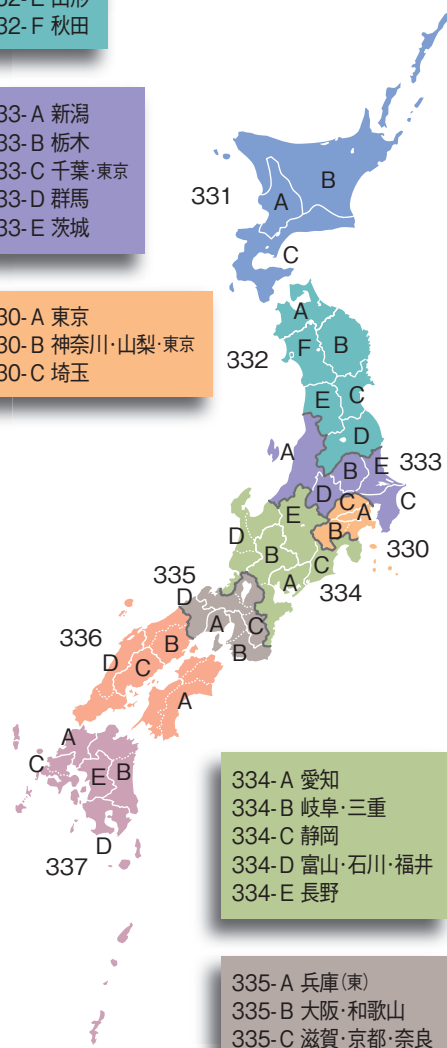
ライオンズクラブ国際協会の公式出版物であるライオン誌は、国際理事会の認可を得て次の20カ国語で発行される－英語、スペイン語、日本語、フランス語、スウェーデン語、イタリア語、ドイツ語、フィンランド語、韓国語、ポルトガル語、オランダ語、デンマーク語、中国語、ノルウェー語、アイスランド語、トルコ語、ギリシャ語、ヒンディー語、インドネシア語、タイ語

ライオン誌日本語版委員会
国際理事　清水 英徳
国際理事　西川 義規
委員長　寺越 愼一（336複合地区）
編集長　佐藤 義則（332複合地区）
委員　久津間康允（330複合地区）
委員　中嶋 辛（331複合地区）
委員　塚田 雅二（333複合地区）
委員　石井 博之（334複合地区）
委員　佐藤 義彦（335複合地区）
委員　井村 一男（337複合地区）

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website: www.thelion-mag.jp

日本ライオンズクラブ分布図

2014.10.31　eMMR ServannA報告による

地区	クラブ数	会員数	増減	男女別会員数 男性	女性（割合）	家族会員数 子会員	増減	男性	女性
330-A	203	6,139	572	4,598	1,541（25.1）	1,468	337	443	1,025
330-B	166	4,914	262	4,088	826（16.8）	585	156	157	428
330-C	91	2,427	85	1,984	443（18.3）	342	59	101	241
330 計	460	13,480	919	10,670	2,810（20.8）	2,395	552	701	1,694
331-A	73	2,730	114	2,296	434（15.9）	364	77	73	291
331-B	87	2,684	97	2,286	398（14.8）	320	86	45	275
331-C	52	1,873	81	1,622	251（13.4）	223	41	67	156
331 計	212	7,287	292	6,204	1,083（14.9）	907	204	185	722
332-A	65	2,078	112	1,660	418（20.1）	303	63	66	237
332-B	53	2,326	88	1,594	732（31.5）	688	48	91	597
332-C	71	1,742	69	1,308	434（24.9）	393	56	79	314
332-D	73	2,421	94	1,915	506（20.9）	458	52	101	357
332-E	56	1,959	133	1,615	344（17.6）	272	89	43	229
332-F	46	1,425	47	1,048	377（26.5）	309	39	45	264
332 計	364	11,951	543	9,140	2,811（23.5）	2,423	347	425	1,998
333-A	75	3,345	59	2,615	730（21.8）	706	28	158	548
333-B	52	1,620	35	1,084	536（33.1）	424	9	99	325
333-C	136	3,904	79	2,984	920（23.6）	735	46	263	472
333-D	52	2,280	34	1,697	583（25.6）	575	13	129	446
333-E	79	3,995	270	2,824	1,171（29.3）	1,212	230	296	916
333 計	394	15,144	477	11,204	3,940（26.0）	3,652	326	945	2,707
334-A	120	6,824	663	4,761	2,063（30.2）	2,041	609	417	1,624
334-B	81	5,442	196	3,549	1,893（34.8）	2,254	129	535	1,719
334-C	82	3,806	173	3,029	777（20.4）	726	118	94	632
334-D	98	6,091	164	3,934	2,157（35.4）	2,258	104	387	1,871
334-E	52	2,555	127	1,890	665（26.0）	671	81	187	484
334 計	433	24,718	1,323	17,163	7,555（30.6）	7,950	1,041	1,620	6,330
335-A	85	2,223	69	1,787	436（19.6）	175	3	19	156
335-B	175	6,564	410	4,960	1,604（24.4）	1,239	310	268	971
335-C	119	3,985	162	3,476	509（12.8）	195	128	32	163
335-D	65	2,008	44	1,660	348（17.3）	220	44	67	153
335 計	444	14,780	685	11,883	2,897（19.6）	1,829	485	386	1,443
336-A	149	6,465	204	4,867	1,598（24.7）	1,189	119	212	977
336-B	97	3,183	86	2,721	462（14.5）	217	36	36	181
336-C	100	3,286	51	3,048	238（ 7.2）	28	4	7	21
336-D	96	3,281	71	2,887	394（12.0）	205	16	19	186
336 計	442	16,215	412	13,523	2,692（16.6）	1,638	174	274	1,364
337-A	115	5,101	395	4,003	1,098（21.5）	627	324	109	518
337-B	69	2,917	402	2,195	722（24.8）	679	365	135	544
337-C	82	3,862	302	2,734	1,128（29.2）	993	264	263	730
337-D	80	2,373	80	2,131	242（10.2）	63	29	10	53
337-E	59	1,691	87	1,452	239（14.1）	107	35	35	72
337 計	405	15,944	1,266	12,515	3,429（21.5）	2,469	1,017	552	1,917
総計	3,154	119,519	5,917	92,302	27,217（22.8）	23,263	4,146	5,088	18,175

世界のライオンズ

2014.10.31　国際協会集計

国または領域………210　クラブ数 ………46,700
会員数 ……1,388,251　会員数増減 ……28,136

のぞみ福祉作業所

宮城県南三陸町の「のぞみ福祉作業所」は東日本大震災によって作業所が全壊し、利用されていた障害者の方お二人が、津波の犠牲となりました。更に、作業を受注していた町内の企業も被災したことから、震災後は全く仕事が入らない状態でした。その後、LCIF東日本大震災指定交付金の支援を受け紙すき道具を導入。現在は、利用者の方が描いた絵を使ったオリジナルの絵はがきなどの自主製品を作り、「南三陸さんさん商店街」で販売しています。

のぞみ福祉作業所
宮城県本吉郡南三陸町志津川字袖浜93-1
TEL.0226-46-5129　FAX.0226-29-6858

ライオン誌12月号　昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費78円
2014年(平成26年)11月20日発行　毎月1回20日発行　第57巻第6号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　Tel 03-3542-9571
印刷所　凸版印刷株式会社